

御仕置例類集

四

食

庫	文	内	内
一六二函	二九冊	三二五七號	和書類

内閣文庫		
番號	和	32657
冊數	29 ( 4 )	
函號	181	66



古仕置例類集四之帳目錄

取斗

○重科人花人殺所附亦類

重科の死骸仕置の儀

附源後

野洲土倉山田村郡於養父使八

下子所為所郡所死骸置

誥之依源後

紀伊敏家本心之徳人は  
三 一 被殺害茶手疵を肩自害  
仕換り付取申方源談

一 致病死私領口書之り仕置  
之候付源談

二 元之人を殺逃去りの人相書  
之り尋之候付源談

六 一 徳国多羽村源之湯巻母  
を被殺害逃去り人相書  
之り尋之候付源談

七 一 備中国井ノ口村吉之丞才修七  
候母子二人を被殺害逃去り人  
相書を以尋之候付源談

八 一 大之書同心在番之族中故心  
之傍小字を殺候候付源談

一旦古仕置に成り後悪事

○以多し以りの古仕置に類

故に高に盗り多し人手下り付に

九 後又以盗り多し以りの後

付評後

入墨重故に成り上盗物ら為

十 存賞文又ハ領り置り以り古

仕置に候り評後

古搦り地致細細水古搦前

科八押包居多搦門前拂成

十一 古後程又ハ古捕右に始末

及白状以りの古仕置に候り付

評後

十二 隠賣女屋再犯に候り評

後

入墨を消給り古搦場亦以り入

十三 以りの古仕置に候り評後

十四

古播比、徼徠以多、  
古仕置之候、  
付評決

十三

悪質を拵入墨、  
上重致、  
成程又悪字以多、  
古仕置之候、  
付評決

十二

入墨を消給、  
一物、  
一、  
古仕置之候、  
付評決

十一

人員多揚、  
去京、  
候、  
又、  
候、  
付評決

十

盗以多、  
候、  
合、  
候、  
付評決

十九

於長濠構<sub>レ</sub>地<sub>ハ</sub>立<sub>レ</sub>台<sub>ハ</sub>の  
以<sub>テ</sub>仕<sub>置</sub><sub>レ</sub>候<sub>ハ</sub>評<sub>決</sub>

廿一

人員家場逃去<sub>ハ</sub>科<sub>ニ</sub>入<sub>リ</sub>墨  
成<sub>ル</sub>又<sub>ハ</sub>家場逃去<sub>ハ</sub>盜<sub>ハ</sub>い  
多<sub>ク</sub>候<sub>ハ</sub>評<sub>決</sub>

廿二

○依<sub>テ</sub>父<sub>ノ</sub>科<sub>ニ</sub>仕<sub>置</sub>成<sub>ル</sub>類  
依<sub>テ</sub>父<sub>ノ</sub>科<sub>中</sub>逃<sub>去</sub>成<sub>ル</sub>知<sub>ル</sub>年<sub>ハ</sub>の  
お家<sub>ノ</sub>心<sub>多</sub>度<sub>方</sub>候<sub>ハ</sub>評<sub>決</sub>

候

廿三

父<sub>ノ</sub>科<sub>ニ</sub>仕<sub>置</sub>候<sub>ハ</sub>評<sub>決</sub>  
候<sub>ハ</sub>評<sub>決</sub>

廿三

父<sub>ノ</sub>科<sub>ニ</sub>仕<sub>置</sub>候<sub>ハ</sub>評<sub>決</sub>  
年<sub>ハ</sub>の親<sub>ノ</sub>類<sub>ハ</sub>評<sub>決</sub>  
類<sub>ハ</sub>評<sub>決</sub>

廿四

父之依科以仕置之威は拾七  
歳以下之もの候旨評議

○老人幼年産取女之類

拾七歳以下之盜以年一遠

廿三

島之方お成りのお家方致夜  
新か候旨評議

廿六

産取其以仕置候旨評議

廿七

夫博奕以年一遠被見物  
了居在妻以外口候旨評議

廿八

女盜賊以仕置候旨評議

廿九

七拾歳之成りの鼓以仕置  
候旨評議

卅一

八拾歳以上者以外候旨評議

卅二

産中其締方檢校中出候旨評議

世二 寶父不劫尚之請養父人  
主請人とも仕置之成之  
後身評識

世三 武州坂石村東林寺弟子  
君幼年之附火以多一以之  
遠高申付拾己案追海  
名起之後身評識

世四 ○唐物又之朝鮮産物未之歸類

世一 拔荷以制禁之後身評識

世二 出所不知唐木買請自所仕  
の所牛之後身評識

世三 出所不正之蓮紗而扱以の一件  
の而上之物之後身評識

世七 旧悪之宥怒不之唐物扱荷  
之後身評識



廿一 朝鮮國產物に倭府評議

廿九 不西唐物を扱ひの仕置伺  
才に倭府評議

○ 穢多非人之類

四十一 引渡方等に非人取込科不付候  
才に倭府評議

在方におるに番非人盜賊

四十二 悪黨のを捕ら取に倭府評  
議

四十三 非人手下成りのを引取度  
候頼出に倭府評議

四十四 穢多非人取仕置に倭府評議

四十五 甲府表に穢多取仕置に倭  
才に倭府評議

三

穢多し身分より卑人より交談

しつゝの之儀に付評改

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

重科人若人殺無附亦之類

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

安永二年八月廿六日

安永二年八月廿六日  
十九番

大坂町奉行

一重科の死骸は仕置

候評後

一浪人細川恰訴出二件の内止

死骸を取捨二可仕付部

分

吟味書朱書中上

此候都吟味お交中因病

死仕の仕置に附ふ中は  
此の八格に對

公儀に重き儀を申出さず

の仕置に重き儀を申出さず

一件の仕置に重き儀を申出さず

申越さずお成り官に定む

重き種人死骸に誥ふ条

重き謀申す名目引當死

骸に仕置に付可然不

申す存に紙例に免合ふ

も不重き症に死骸に

申付此の儀に接州西北町

一西人の儀に申す不秀頼

の儀に申す末に奇怪成る

申人並に申す不届至極

申付殊に申す捨札に建

申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す

辰七月

大分府古書所存之迹

史記云元皇太后大坂町寺新  
同寺目付お伺く浪人細川恰  
訴出く後之府一件内仕置

一 細川恰後病死之存命之く  
お愈く之鷹黄不其下片一  
件く之のあ中後以  
一一止捨札之趣

此の幼年の虚言多生  
得く不其近才奇怪

成俊中之元才援例西折

町西人之憚二之お意不秀  
頼落子之末杯虚談大  
言中之不届至極之可憐  
仍皆捨札お建可中

高七月十二日...  
後之府...  
其...  
...  
...

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

天明五年庚辰

吉野守吉新

拾七番

久世丹後守

一野州土屋山田村郡藤巻父

伊八の手紙を肩に郡長死

骸塩詰り候評談

尚七月十二日丙辰

後与相伺以野州土屋山田村郡

藤巻父伊八の手紙を肩に

一伴之由伊八養子郡長候

外

養父の事、祇百負の始末、不届  
至極、存命、よく其意、  
樂可也、竹付哉、可相伺不  
病死、腹中上、然、  
この於、宇内、お果、  
骸、  
此、  
骸、  
其、  
其、

可中、上、  
此、  
宇、  
死、  
主、  
筋、  
例、  
此、  
付、

所捨例も有之是也仕  
其区々所産百評談仕  
亦所仕置お伺ひ茲所定の  
尚以之例も有之所定と  
例と所外之不一身支極之  
於る所定之方を打用向後所  
仕置お伺ひ極可心於所定  
曆十辰年々所書所仕  
置お伺ひ茲所定にお尚し  
仕置之事も少く不有之

所定所定か所仕置作略有之  
之類例を以てお伺ひも有之  
以所定書之方有之分ハ所  
定之引高お伺ひ候ハ所定  
にお高のみの少く不有之  
亦定ハ所仕置作略有之例  
を以てお伺ひ候ハいつとなく所定  
消之極お成候旨有之お心  
附不孫極不お伺ひ所定曆  
十一巳年々所書所仕



所定之可也家再意評職仕  
く不重科人死骸陰謀之  
定之條之主殺親殺闕不破重  
謀斗者之命死骸陰謀之上  
亦仕置出外志不及陰謀子  
と有之旨状を打擲以て  
又志ノ子一紙を肩ノ逆罪其  
上も吟味中お果ノ其親  
存余ニく余不及陰謀方也  
可有亦存之哉却之仕置

可お半りのお果ゆりたる存余  
ゆり何し仕置す中付お病  
死ゆりもろろ存限一併し  
昔中お果ゆり度有死骸不  
及陰謀其状お成ゆり仕置  
にお志す子成ともあへ勿神親  
本年紙を肩ゆり吟味中お  
果ゆり先死骸陰謀之圍ひ  
重之親お府るお果ゆり  
死骸陰謀之候し仕置お付己

親之病深平愈はく死骸を  
捨つは重し候お付且去し外  
時宜しき前より所におわく  
獄門中々々の吟味中病死  
しつゝは臨終にら圓に死骸  
は重し付くも病は其の定  
し外右に吟味中病死はく  
死骸九押し上は重しお付は  
以来極重き方にて病は  
死骸上より丹後と申すは死

骸より及臨終に色は白  
死骸は重し候お付は  
八月十八日丹後と申すは  
久世丹後と申すは野呂と申す  
田村那義と申すは千代為  
貞の一件は内侍八重子殿為  
候と申すは千代為貞の始末不  
届と申すは存命ありし定し  
色は白し候



りの晒し上礫親は手底を負き打  
擲しつゝいもの礫をいぢるはあつた  
お果の節と塩漬し上死骸の仁並  
中付の節と塩漬し上死骸の仁並  
おさなは併し人并親の切くは  
おろくまのいものハ死派、おさな  
いもの首と剣の押死骸を晒し候  
いもの塩漬し上死骸の仁並併  
論もその節と塩漬し親の切くは  
おさなは併し人并親の切くは

おさなは併し人并親の切くは  
いもの首と剣の押死骸を晒し候  
いもの塩漬し上死骸の仁並併  
論もその節と塩漬し親の切くは  
おさなは併し人并親の切くは

己  
八月

いもの首と剣の押死骸を晒し候  
いもの塩漬し上死骸の仁並併  
論もその節と塩漬し親の切くは  
おさなは併し人并親の切くは

天明六年甲申  
大坂町奉行  
小田切土佐守伺

拾九番

一 紀伊殿家来乱心之方他人等也  
被殺害并手紙為負自害仕  
損少自取申之評談

去月廿六日而渡り申上小田切土佐  
等上紀伊殿家来他人等也  
被殺害并手紙為負自害仕  
付一説信不富六月廿六日大坂町郎

昔河内代有不堪其東成郡天皇寺  
村之内天下茶屋地内之紀伊殿家  
東寺傳六郎多傳繼人足伊助也  
河敷害外三人之手負也六市多傳  
八日村地内字鯨谷畑之池之自害  
仕損其其疵人共八三口之六市  
兵備八紀伊殿家來付四郎吉河方  
言新お札の奉行而吟味有  
之疵行一一度方同人中史の月  
ま可事の細方同心者を札札也

六市多傳池之種先を口く是実按  
の疵とお見首筋者之方其寺  
斗之疵をケ不あり之氣力信  
おん人其共過言中守新控  
置右之及始末の中を之の疵  
留之類もお中より中へ子  
相之々有之板表紀伊殿家  
安設人お後者生付疵人共  
ハ不取ケ中付意人其共をも札札  
ハ不取途中過言之疵之勿論

亦高き所の對し難云ふ所の覺  
曾る事し申し候とてふ事あり  
吟味ふ所類は同一し伊弉  
親も同事し申し候是も吟味  
志ふ所類伊弉死骸行付事度  
方申候事言所候事書し申す  
志ふ所類若後ふ都合も若所  
家来定右通し申し候度由先  
より存分抱負誠り申す所  
右通し申す所類申候人共通し

今右昇右仕候事申候事存  
申し候道中申候事申候事  
無目尚し人共其ふ事申候仕  
候令礼の事申候事申候事  
若申候事伊弉親類申候事  
申し候事申候事申候事申候事  
無所候事申候事申候事申候事  
由所人共其ふ事申候事申候事  
申し候事申候事申候事申候事  
候候此所申候事申候事申候事

川邊御手紙等不承申上申候伊由  
死骸之類は此序付申人足六人  
もの共候者歎者先々取付候  
方お伺申し

は彼吟味書し候ふら寺邊に申  
急務候旨候申候御申上申候  
ご方申人より申候様事もの波殺害  
ゆり下申人ふ及子但之候  
ものを切殺し時切控へ成候様  
高下とらぬ事と申候候

足合六市を渡候申候候  
当りし一ノ者申上申候  
役人川邊を一件しもの共と申  
捕候申候伊助死骸ハ九片付申  
付申候仰候の候事と申候

午八月

評決し候候



*[Faint, mostly illegible handwritten text]*

天保七年四月渡

右江町寺の領

訃告

一 寺の所長及び成金重科人源病

死私領口書より位重人彼身源

後

當有十日江渡成金大坂町奉修

中書付一洗位重人河内福領

分河洲茨田郡大庭六郎村源三

後同家存長伯母と云去年九月

四

廿一日渡りて突敷のり油屋のり村方  
捕まゆら因梅のり方小許出のり日同  
人あまあまのりこもて病にお改めし油屋のり  
お乳のりこもて油屋のり書又死に流  
左のりとあまのりこもて油屋のりこもて  
斗勝のりこもて油屋のりこもて及いし油  
る外のりこもて油屋のりこもて書先おあ  
毛のりこもて油屋のりこもて京都のり  
引合のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
家来佐野信房のりこもて油屋のりこもて

再換支のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
お水清のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
得下り油屋のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
分中油屋のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
味難仕保重科のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
徳宅のりこもて油屋のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
同十月中旬のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
五日お果のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
改の上のりこもて油屋のりこもて油屋のり  
のりこもて油屋のりこもて油屋のり

その元不念う其申方等一  
件の内答亦不何もの言の座  
然るに其座の儀は其後人の言  
の口書もあらず大坂所を以て一  
面にお尋ひはる伯母とと教  
候申す處方申す事ありあらは  
書ハ申付不願し始末申付  
候座内在合はる引出し  
獄門を付力の二は候一件の  
昔申す座申し候申付座代

よりと於彼地を科しよの吟味  
不五然以前お果し例を以て  
付お伺ふ候事候し  
は候を科しよの口書申付  
内病死以ては是も何の例も  
無し候に其座申し候養父  
先通座申しを伯母とと悪口  
候し候を申付候事候し  
候しよとを教候座申し候外  
候事候し候事候し候事候し

差出其上大坂所すのふ一  
通るお札と申も大日書いし毎  
おちて書いし中まよふ中  
ふた口書木ふり付内病死し  
しものふ記書いしの中  
男伯父伯母兄弟を殺しものい  
御定して伺く色存命らるる  
早し獄門のり付ものいふ  
病死はらるる方て色一併  
しもの書いし後方は仲渡

これいふ事なる

未  
二月

評談之巻序

*[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]*

寛政十年年四月

不司代何

三五

一先立人至教所云いもの人相書と

以身い候身評議

賜廿日評議付可やふ方と信申所

後成い不司代かき書而一説仕

山度彼地之系在中河所日光を

みよ夫久き湯下人六太郎候身

持ふ真い有去巳十二月翌日暇為

人

其不交之日乃其言、  
付于俣乃其言、  
後久其言、  
迎去其言、  
人、  
尋、  
出、  
古、  
今、  
例、

之、  
一、  
了、  
所、  
入、  
右、  
は、  
確、  
を、  
條、

辰年位田初泉の可なり之  
節掛りたる元主人淺草山之翁  
三郎合酒店太郎合酒とて  
りたる突殺逃去の森合酒人  
書山解出の例も少く、乃六太郎  
候も人相書山解有して然  
京都町奉行より、その人相  
書解方、候も大坂町奉行  
に各合目、振合を以て不可  
代々上り候付、何れに西彼地町

奉行支配國に候も取司代  
合お解り候は、你達より外一統  
出、初司代より、京都町奉行  
行方出、人相書写し、顔をも  
山解有之、此等、存在

年二月

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 源, 氏, 名, 姓, 等.

寛政十一年申酉月 五十五番

菅堂和泉子承事

一 下総國鳥羽村原多清卷母之江敷害

逝云の月人相書と以尋之候事誠

菅堂和泉子領分

下総玉香取郡

鳥羽村百姓

源右衛門

右源兵衛候当月二日春母之江敷害

被敷害逝云の阪村役人等申出り付

早速被地之好申役人共換出之候事



乳の處が原多清使ち小田切去依り秋  
の細ふか給知日郡岡村百姓西高九之  
才より其息三人目娘とて其聲  
子に相續る彼平日実神に其息に不  
當月二日朝西度者畑に肥を付糸  
立留の上三度目又と其か其息に依  
去年ハ麦厚く前ハ取実入不空り  
當年ハ薄く前附の根下ハ不深き深  
依り依り一年未だ依り今又其息  
不更其息とて此の付とて依り去年ハ

取実ハ方ハ月ハ附ハ依りハ方ハ不道  
言ハ返音ハ届ハ方ハ不深く此依  
折擲ハ付ハ其息依り立入深き深ハ  
其付ハ其息を押し返音ハ其息  
の付ハ其息ハ其息とて其息元  
存見合者ハ度ハ其息依り其息と  
此依り原ハ清如何極ハ其息有  
其息其息二年向ハ其息其息其  
間其息其息其息其息其息其息  
婦聲其息其息其息其息其息其

得去免角と急身と上無心元  
途申の三度り凡ふふと急候ハ  
家と遊去候と凡宅介此候片  
禰隔り殺害に遊候言清ハ行清  
不取急候声とて度事とて候農  
業に申らる事と申付お紙の方申し  
さし姉事通り女房さし候と病氣  
とて宅に折付候とて所候言清方  
申らる清言声のり立出内と急  
候候殺す中申すのり馳乗候度

申らる果候言清ハお此申ら  
申らる殺害の候外に推り有候申  
ふ申ら急死骸ハ丸目とて耳とて  
長サ六寸禰深サ五分禰右目上とて髪  
中長サ五寸禰深底右耳とて髪  
中長サ五寸禰深底右肩先サ七サ  
五寸禰深サ五分禰右肩先長サ三  
寸禰深サ五寸禰右肩下長サ五寸  
禰深底狗先突底深サ五寸禰右  
腕根と下長サ五寸禰深底日根

下は早し長サ五寸程はサキ寸程  
右ノ手脈不長サ五寸程ツレテ不  
後祇元の年ノ申長サ三寸程は祇  
元脊中長リサキ程はサキ寸程切祇  
或ハ突祇都合サキ不長ク昂死位  
ハ後有瘻治等ハ不伝ク有瘻文ノ  
申中ハ尺ノキハ死骸ハ土葬并付  
ハ程中付源流流形風ノ後處方  
ノお尋リは共お尋アハいあせ一  
領ノ外被害ノ候ハ折方者も若高

ふあふノハハ源流風此去リハ逆  
罪者ノ候ハ源流風ノ候ハ如何方  
斗ハ程中付源流風ノ候ハ如何方  
付候源流風候卷母を殺し逆  
去逆罪ノ候ハ何人相書を  
以テ之ノ事ノ候ハ何人相書を  
高直ノ料ハ何代を相領ハ候  
地改中ノ夫ノ月改ノ候ハ如何方  
ハ如何方ノ候ハ如何方ノ候ハ如何方  
ハ如何方ノ候ハ如何方ノ候ハ如何方  
ハ如何方ノ候ハ如何方ノ候ハ如何方

之為服并右卷之由を殺し遊去  
の始末月日未委細書付了先上  
旨及堂和泉守に於仰渡右書  
付了上り、人相書に觸る上者  
しもの有し服中か他之引合無  
之ゆり、和泉守に引渡他之引合  
有しゆり、しを以味の如何に効  
定事引上り仰渡す所和泉守  
に七引仰渡了此狀未存に

未  
十月

去る三日伊渡らぬ者堂和泉守  
願分下総國香取郡鳥羽村百姓源  
兵衛儀養食母と殺遊去り始末和  
泉守に未上り書付并源分書  
人相書一説仕に則紙人相書に觸  
案五洞号上り左右の觸る上先送  
る中上り色者し者有し服公より方  
引効定事引上り出他之引合無しに  
引和泉守に引渡他之引合有しに長  
引分書味如何に引効定事引上り



流お名守祇人へ候へ醫師お召付  
療治お加主に候お召付お召付  
其御出付早速家来召出分候御  
度何れ骨立之候を長引候御  
御召付召付一命に候無覺有る醫  
師中守祇人申口前書候御召付  
候御召付御召付候御召付  
次申農業先召付早速御召付  
申候七候御召付候御召付  
子も存隣家候御召付吉候御召付

立の月子建御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付  
醫師お召付御召付候御召付  
お召付候御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付

候御召付候御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付  
候御召付候御召付候御召付

書付ニ向後之人并就下為手負ハ  
その新舊におゑより人お書と尋  
つら 仰付らるるに及今人お書と  
以右に色しもの者く新ハ中末  
當室の料より代々秘領を領す地  
中五夫より月五の寺社を以  
中生方の簡有しと後藤田権佐  
も其仰渡り然れども為る則別紙  
人相書以簡案取調より上中

申五月

寛政十二申年四月 七拾五

大馬場  
堀を以て上

一 大馬場同ん在りしに諸申私に在る傍  
事と教は候身御談

當室四月廿八日御談仕の中上方面  
新敷の大馬場を以て上馬場人  
部り同ん是於源次候二条在り  
誠以茲中若川候に是時迄に居る  
相組同ん相本孫より手負の者

八

乳の如孫の儀原次より詠進恨の更  
光等の中より同人儀前は中にもお分  
りや今乳の如孫子にお見の如孫の儀  
一同夜お果の身進く想と力同の共も  
お乳の如原次孫の常し不和合儀  
此の難を意詠進恨あり詠進あり  
不中聊の苗より儀等し乳の仕及右  
始末の儀も存の儀一同中守令乳の  
し孫子より産の如乳の如孫の上右  
對原次進恨未等の産の身同人助命

と後お願の如孫の儀竹内と平太并  
親類共一同中立ち分る紙お原中と  
孫の儀もよきにお果同人も死命多  
る如承明にお成りるも大務難儀  
仕常、実躰お勤しもの、儀の産の  
る跡書代り付る儀是又お紙の中  
上

此儀の定書に乳の如人を殺し  
共の如下ま人の如昔乳の如説按  
此の如し上詠進恨の如し人共祝



秋ホリ子人御免に於給申を以て  
誠のお伺ひも有し唯は御上  
書面は紙に書き源次候礼に  
お申の由を其處迄誠の道中  
に傍書と及教書に

公儀に對しは紙書も申在り候  
今迄教書のよし親親苦申分  
ういとも助命にお成る由との  
に及る由に御方にお申候  
を及教書の始末にお礼に

舟原次候も道に寄る方より  
この付書に御儀了然申  
且確ら疏少抱余候と伺は  
此御渡の紙に申候

申  
六月

洋紙に書

Handwritten text in vertical columns on the right page, including a red stamp at the top.

Handwritten text in vertical columns on the left page, including a red stamp at the top.

一旦仕立を成り後悪事以多

一以その内仕置之類

Faint handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page.

昭和八年年市渡

巳九番

火附盗被改

名附友七多付

一鼓<sup>ニ</sup>尚<sup>ハ</sup>盗<sup>ニ</sup>非人手下中<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>後

又<sup>ハ</sup>盗<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>し<sup>テ</sup>し<sup>テ</sup>り<sup>の</sup>後<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>神

改

伊勢各番

松之助

右<sup>ノ</sup>の<sup>後</sup>六年以前子年盗

以<sup>テ</sup>多<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>依<sup>テ</sup>科<sup>ト</sup>釋<sup>ト</sup>多<sup>ク</sup>洋<sup>ト</sup>在<sup>ル</sup>

手下<sup>ニ</sup>成<sup>ル</sup>非人小<sup>ト</sup>入<sup>ル</sup>処<sup>ニ</sup>在<sup>ル</sup>

以多一書者。成所々人立境  
江村人百姓群々。の々腰  
錢杖銚拔取或ハ町人群々  
の々中总田ニ曰文涉有々在  
切取々外有責行心然々内々  
銚盜取町屋見世先々有々  
電結交々盜取々候不届々付  
設可相伺知那人々依付設取  
尚々仕置可中付分中渡釋  
多彈在渡。引渡

此後六年以前盜以多一以依  
科設可中付分知釋多彈在  
渡。取下中付分々拾口案  
盗取々盜付佛定々色々  
此處々然知再犯以多一以  
の々此處一旦設々成以上  
盜盜以多一々の入墨々  
佛定。此處々此盜盜以多一  
々の大人々此仕置ハ一等  
糧可中付分々佛定有々

初年之無者那人手下  
付以一等槍也尚る  
不再犯入墨言ハ  
仕置一等槍也成  
古座之月何之上  
仕置可申付申  
彈右邊ハ引渡

己二月

評談之書

昭和九年

四拾貳番

大坂市堺代伺

一入墨重致成上盜物

昔更又ハ新

之儀付評談

去月十九日

書面一覽仕

由仕置

戒之忠告

拾

その先を云ふ事ありて新に  
盗仕く三付入墨重敷中付の  
所存不本誠前く古き清戒  
右之清戒盗物と存存分々口  
昔清戒と右之清戒盗物と  
存存盗物取置く事難返致  
可中付致く右彼地所存取  
一付入墨重敷く上又盗以後  
く右の死罪外く悪く事以後  
右の重敷く所定不存金

致入墨重敷く再犯も同様  
お心付可中付本誠前く六  
之清戒と右之清戒と右之  
清戒と外く悪く事以後  
各所存盗物携再犯同様  
右の重敷く所定不存金  
存存盗物保全く盗以後  
くすくハ家も物可事不存  
右仕置治定難仕以事為心  
以お付く方中上

此後市定書入墨に成り  
又ハ盗りし、し、の死罪外  
之悪く、以、し、の重キ  
致と有、く、百入墨致入書  
重致、く、再犯も同様おる  
万中、片、は、似、渡、不、然、哉、と、存、存、ハ  
一 越前、く、六、多、備、式、く、太、多、備  
後、先、を、し、り、等、く、新、入  
盗、い、し、入、墨、重、致、お、成  
く、知、盗、物、と、存、存、ハ、口、世、貴

諸、ハ、有、く、分、ハ、口、取、く、の、盗  
人、ハ、同、類、云、分、ハ、悪、く、予、六  
等、ハ、存、く、百、入、墨、に、成、く、上、又  
く、盗、以、多、く、以、し、の、市、定、ハ  
引、尚、死、罪、万、中、何、片、は、似、渡  
可、然、哉、と、存、存、ハ  
一 堀、く、太、多、備、も、前、書、友、人、同  
格、く、不、屈、云、先、書、入、墨  
重、致、と、お、成、く、不、盜、物、と、存  
存、盜、物、と、存、く、有、く、似、渡

盗以多一以のりも同様  
定言外に悪く中二去有  
症胃費有是又同様  
定言死罪中中分分位  
渡可然哉寺存以

辰  
六日

評議之趣

寛政三成年の渡 三拾五番

町寺行

池田儀没の伺

一 寺様、地致御細は百捕前  
科ハ押包指毎捕門前拂  
成之、没程又百捕太の始  
末及白状のりの内仕置の候  
承評候

去月十五日の渡に成り池田儀  
没書中上り其の各君且り助



予入署五日一併仕置伺  
由是若大者成先寺言不  
届有之故又入署之相成或  
公事赦之出牢後入署を消  
給し以舟如之入署し上江戶  
拂之相成く知古搦場不立入  
江戸捨里四方返放又古糧返  
放之相成く不古仕置也不古用  
又古搦場不立入以候不届  
付古定之也一等重く申返

放可仕候付部候相伺申付  
然先寺言江戸拂之相成也  
没古捕也言江戸拂之成候  
押隠心中立出牢門前拂之相  
成候後古成上は捕江戸  
捨里四方返放將返放之成候  
不候度候捕以付一等重く申  
返放言以候古言古押隠候  
在古言白状之及以候候一  
等重く可相成之候言古

之の唯今とハ不及汝法仕  
来し中々も以て其不及白状  
節ハ貴方も免るる一于に必  
然し事 事以て其押包  
く候及白状ハ其立入候敷  
止以て仕置重るるに仕置  
るに候も立可然哉に入墨  
なりとハ遠く商人押置候  
貴方も其意に相諭仕置  
重る候事も貴方如何候

事ニ付評議以て一可申上

内書所記の仕置候

此候此味も候入墨  
上江戸拂にお来候後昔谷  
川平は其方言百捕吟味  
江戸拂に成候押包  
在候事も其の如く  
門前拂にお来候江戸  
拂候の事候御取  
江戸拾得四才返候

成のる白状不致のを去  
修のる一仕置重るの期  
年といふハ如何との旨趣定  
古をいふ候古構場不立入  
く友叔のる今友重返放  
おるのるのる候然知如  
彼言を勿論く候存候不  
言ハ目了く候味助ハ巨細  
おるのる古構場不徘徊  
以るのるのるを多し候と

爰爰吟味去不仕の古構  
地徘徊のるのるのる自  
己ハ中立的候ハ不仕押包可  
候立る早候の情有る  
候ハ急事ハ陣の迎仕置  
重るの候候多古産の古構  
場不徘徊のるの候一旦去  
おる不仕不及候法お漸く  
去後お取の迎右の仕置  
をハ然のるを余の仕置

巨細にお來を上詰り味を  
知りて其先を掃くもの  
をく裁し中へ俵お札不  
りも不お成建も押包い  
庭しもの一色く取ら  
立候も多き座方以迎候  
味も不お來り申不  
取替ハ被方も多し  
掃く地御細以多し  
仕置し取扱方へ俵お

以上を掃く取扱り  
く中へ裁しもの  
再三評談仕候候令知  
拂お高し料とを  
高し料と二つ有るもの  
も死罪之志不お來り  
方へ附取仕置お海  
條に來子いりし  
手廻しもの  
巨細刻取仕置附仕

際浪無く却多返くにお  
来下中我牢屋焼失く  
荷放す也不立歸りの不  
及外本罪お当り古仕  
置く可中身立歸りく本  
罪お当り公一等糶可中  
と省く可定去入牢以し  
く福く之の放す也以福く  
不立歸り若く年た不届く  
多く立歸りく力の多事特

取を以て定む可置く可取之  
と事存者之に勤者仕く可  
も才分く不正を先去す可  
不し立違古仕置く可  
及中可置有取前不  
相取候不拍前く古仕置  
也以一等重く中身立歸り  
くく可置有候可  
是也く也之成置候取  
く大者候何く也之候

不務邦、幸存、

戊七月

評談、無誤

四拾七番

寛政三亥年松平和泉了後所書取

内渡

一隠書女屋再杞、依、評談

隠書女屋在、上外中高

書、以、多、一、の、若、若、免、一

以後五ヶ年、一、因、致、商、書、於

一の、五、ヶ、年、迄、元、比、全、自、は

下、以後、高、書、始、の、一、も、を

書、女、屋、在、下、排、家、財、願、所

中村右建家初遊一火除地  
お成るもハ如何可有之哉能角  
再犯石相止哉。お中々再犯  
し不止。早之竟建家亦去  
候有し。初々予々右之  
如以許談以る。一可中上号  
古書所記。以之候事。身再感  
許談仕。不銘。存考有  
一史。難仕。古語。官別銘。  
存考中上。題。考。五。出。考。

寺社奉行存考

右古書所記。色。求。之。候。  
憑。賣。女。屋。古。冬。之。子。之。成。  
所。然。以。始。其。明。地。之。中。村。右。  
家。之。有。之。御。定。之。振。中。  
右。御。定。之。仕。置。之。禮。重。古。  
遠。之。寺。之。不。立。斗。力。之。  
古。極。之。置。之。以。題。之。有。之。御。  
文言。と。お。中。上。ハ。盜。賊。之。仕。

置し候より延享四年二月  
より寛延二年十一月三  
十年より思ふ有る相改り  
いとハ話も遠く申す所定  
越お改り候容易不成候ハ  
勿論より申す存する存  
申す所定より候より候  
越之不然ハ申す上ハ候  
より申す所定より候  
九段表穿鑿より上所定より

替申す外申す勿論地代店  
賃上細申す候又より賃女  
置ふより振替より候世極  
表お紀より自然より隠賣女  
より候より候可相成部より  
存する所定より振不申  
可然部より存する  
町申す所定より  
隠賣女商賣より者



近來多くお成る部にお呼風  
俗々々々も不且々百書  
取々色取斗一可然々地九  
其地廣方々代身新古  
系斗々外々右極々場不々  
々々々々々々々々々々々々  
代々至り中百復々々々々々  
其一統以書不々色々斗  
々代々劫無可有々率一々  
勿論是と隠々々高々々々

上々場不々内々々後 佛免  
々場不々お定々欠々々々々  
其いも如何身以々々手近々々  
隠々花成場不々者九高々々  
以々々々々々々々書不々色々々  
斗一々々外場末亦如新々高  
々々々々々々々々々有々々々々  
是と々々色取斗一熟々々上  
隠々々女高々々々々々々々  
有々お取々々々中身々切八伺

後仕場不極、妾生筋と別  
後

思ふに、以て書有、一、五年

可中、片は、任、渡、方、之、所有

而、産、部、之、事、好、く

与、勤、之、事、好、存、家

隠、賣、女、屋、在、下、捕、上、各、中

高、賣、い、い、下、上、の、後、之

賣、女、屋、之、外、家、主、五、人、組

名、主、八、全、再、犯、之、請、人、人、主、之、各

抱、之、賣、女、之、請、人、人、主、之、お、成、之

之、是、又、再、犯、之、外、之、御、定

上、之、罪、重、く、可、中、付、候、之、所有

之、之、始、之、賣、女、之、新、吉、原、町、之

一、乃、其、地、面、之、上、外、之、請、負、人

中、付、地、代、店、賃、五、年、之、百

公、儀、之、為、お、細、之、百、拜、中、又、賣

女、屋、以、由、一、以、之、元、地、主、之

不、得、之、八、年、之、産、請、負、人、之、所、地

所産の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
一五十年迄之地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に

高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に  
高賣の地は是以前に

其申上相御下不于後延享  
 文子年於又  
 御好有比面取上已于年  
 也比代后賀  
 公俊乃地以儀之由乘高时  
 下御定相極之趣之相見  
 中一府傳書不之五可然  
 之也治定仕申上兼之官其科  
 條教典之趣奥之認先也  
 順申上以

科條類典之趣

九月加地

有言其於不其之公上之其其  
 下御定相極之趣之相見  
 △

寛保元酉年十二月投野越申与  
 及河出估之水野野馬与何之也

一地之主  
 外二之在也  
 家之在也地面之上

但五十年之自以地之致也六

今年日之元地主親之為買

一 所可申以

右伺之趣を以て寛保二戌年四月

御定之趣を條々概々お定り先

御定書致出申す処丈に延享

之始迄之趣好亦有之由付△

之趣条々相極了申以

本文之趣迄之趣好有之由御定書  
之趣申す返之加入之由ハ限リ申す

下之礼



事之御定書之由今申す

延之由並に申す旨延享三年

九月加納之由申すに付

仰が以

寛保三亥年二月在之御書付

之趣申す

隠賣女之仕置由

一地至

外ニテ申す由

御定書地面之由上

一 但正々年之内明地...  
置六々年目之元地之主...  
乃買取可申

此後明地...  
置六々年目之元地之主...  
年之内役...  
外之仕方...

寛保三亥年二月大岡越前守  
石河土佐守...  
由

一地主  
但正々年之内明地...  
置六々年目之元地之主...  
乃買取可申

外之仕方...  
此後明地...  
置六々年目之元地之主...  
乃買取可申

己今年、内致不云上  
と七外、仕方ハ有、官費  
取、尋、趣、承、知、  
建、亦、令、任、差、置、以、  
又、令、屋、敷、内、之、賣、女  
若、置、く、百、假、令、高、付、分、商  
賣、り、の、地、借、取、在、り、  
回、屋、敷、内、之、又、道、一、  
設置、不、届、之、以、在、官、部  
賣、り、之、上、之、耕、仕、己、年、

内、以、地、仕、置、可、然、官、子、保  
以、十四、年、約、上、極、中、  
一、以、之、置、一、極、之、以、在、地、  
之、又、徵、只、今、上、一、以、  
地、以、之、一、至、可、然、地、  
寺、取、以、

淨附札

只今迄、毎、月、之、可、為、置、以







寛政五五年  
 小田切土佐  
 一入  
 立入  
 後  
 小田切土佐  
 一入  
 立入  
 後

寛政五五年

町奉行

小田切土佐

一入

立入

後

小田切土佐

一入

立入

後

小田切土佐

上仕置申付例ニ見合  
ル元入書ノ上書ニシテ  
明元決定ノ趣ニテ  
重遊致ノ事有ル  
調可申上旨ハ  
此後出仕申上ノ例ハ  
趣意有ルニシテ  
任付ノ事ハ  
附書付申上ノ事  
不審ニシテ

入書を核計構ノ地  
内ノ入書ノ上書  
仕置ハ一等重  
有ル重遊致ノ事  
入書又ハ致ノ上書  
旨定ニシテ  
ハトモ  
致ハ消録ノ事  
入直ノ致ノ上書  
申上旨ハ

と申す存心

三月

中止と云ふ所候は分書書面と云  
お申上公本区と不成候  
五心坊片紙付

五拾番

寛政五丑年戸田采女正辰吉口達

一古搦と地ニ継細い多し

古仕置と候と評被

古搦と地ニ致継細い古仕置

と後路と心得と趣可上分

と候字

此後古定書と古搦と地ニ継細

いしし以前の前に古仕置

十二

一等重く可申付但返放  
或ハ新掛ホ申付知由  
岳町岳村ハ立向ノ所在  
此仕置不申用ノ事  
ノ旨入墨ノ上宮前  
仕置ト一等重く可申付  
之有リ然知者此攝地  
一ノ細細心多シノ先達  
入墨有リ此ノ事入墨  
ニ申用前ノ仕置ハ一

等重く可申付安永四未  
年ノ書付有リ程又右ノ  
色申達有リ此ノ事  
入墨有リ此ノ事攝地不  
立去ト先達言入墨  
際ハ一筋増ク入墨申付  
前ノ仕置ト一等重く  
可申付何ノ度立向  
トモ若ク無返一筋ツ  
入墨ニ申用前ノ仕

置より一等宛重く可お  
伺分回六百年所任出有  
返放亦お成一旦外に立  
退く後右に構へ地緋細  
以多し或ハ任居以多し  
者ハ前より任置ハ一等  
重中舟又も返放亦中舟  
より直に居町居村に立  
歸りよハ不立去者より  
入墨より上実前より任置

より一等重く中舟又ハ赤  
二長町居村に立歸りよハ  
右入墨より際より筋増  
以多入墨中舟是又前より  
任置より一等重く舟  
ヶ交立歸りとも右より廻  
より一助ツ入墨を増前より  
任置より一等重く中  
舟より候より任置より  
右より一何おハ終り居在り



成り却り取付尋に成る

此後市定書に入るに成り後

又盗りしにその死罪

と有る悪は賽拵りのも

利欲に拘り人を欺くを盗

賊に類し仕形に成る百

石科に入るに成り取付

後盗りしにその死罪

にお成り取付に成る右

市定書に成り取付に成る

しつゝ重敷と有るに冒盗

に成り取付に成る

始末に成り取付に成る

に成り取付に成る

に成り取付に成る

上寺好い

寅二月



寛政六寅年六月廿五日  
百廿拾五番  
一入墨を消給一情爽以多事  
一の古仕置と依身評致  
中退扱にお成り以後入墨を消  
給に少構場にお立入口下管  
以費情爽りし一しりの古仕置  
且口下管情爽三度以上及び  
くとも若別有る官及部は  
古尋に内定し計表に記す

寛政六寅年六月廿五日 百廿拾五番

一入墨を消給一情爽以多事

一の古仕置と依身評致

中退扱にお成り以後入墨を消

給に少構場にお立入口下管

以費情爽りし一しりの古仕置

且口下管情爽三度以上及び

くとも若別有る官及部は

古尋に内定し計表に記す

山後号符符符符符符符符符符  
種ハ三度以下ニ付ハ重致三  
度以上ニ付ク中返致ニ付  
入書ヲ抜出揃ル地ハ  
立留ルノ入書ノ上  
市仕置ハ一等ニ付  
入書ノ上ニ重致ニ付  
一ノ月重致ノ付入書ノ上ニ重  
返致方ハ任付ノ付三度以  
上ニ付ハ一ノ月重致ニ付  
一ノ月重致ニ付

宣  
十二月

山後号符符符符符符符符符符  
種ハ三度以下ニ付ハ重致三  
度以上ニ付ク中返致ニ付  
入書ヲ抜出揃ル地ハ  
立留ルノ入書ノ上  
市仕置ハ一等ニ付  
入書ノ上ニ重致ニ付  
一ノ月重致ノ付入書ノ上ニ重  
返致方ハ任付ノ付三度以  
上ニ付ハ一ノ月重致ニ付  
一ノ月重致ニ付

Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page.

寛政六癸年三月 百部拾七番

不司代向

一人是茶場迹去京郊に孫裁との

又ハ回下ん孫裁と上西子いり

と節百部一と後子評談

一と表人且茶場と名置と名置

しりの名故迹去於方石捕

此味と上外と名置と名置

茶場廻りの名置と名置

茶場廻りの名置と名置

中い討う方お伺中い

此後家場を逃去りし後長

谷川平蔵中上置り家場は

仕置書付家場は逃去り

りの人足家場の呼出り科

始末中後人足は為

又置切繩を無穿屋敷に

差を死罪有りし様は是を必

か度卜レハ不容易候一

且引請人ありし事と不お渡家

場か直に逃去りし後長

場無に惣合り上は彼地死

罪中分り方と有る様は

二吉なり

一右りの様を表す各罪は

事方悉りし事と有る

一仕置書付家場は逃去り

此後人足家場は引請人有

引候に其様は又ハ他國出

し事と有る様は又ハ他國出

此地...  
中文...  
可有...

一右...  
お成...  
字例...  
く方...

但右...  
中口...  
場...  
及...

以...  
る...

此...  
斗...

十二月

許...

*[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]*

寛政八辰年戸田采女正辰所領

三十七番

一 盗忍一以依科致其成以後

各者亦中合盗可致其不細

細以角一いす盗ハ不致りの

に依三所評致

去月十六日所領成以後

依科致其成以後各者亦中

合盗可致其不細細いすい

才、盗不致りの市仕置り後  
評改い多し、市中上方所  
少し

此後寛保三亥年石河土佐  
多町寺形より相上り仕  
置中并々若坊主と云  
後改り仕置りお成り後又  
盗不致り各若者共助合  
人立場に死越り限不届り入  
署より上門前構中并々見

合入署より共出り仕置り也

存

辰  
二月

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

寛政九己年以渡 年十七番

長海寺の

平加美式部少輔向

一 於長海構へ此に立入りの内仕

置へ候へ評談

去己十一月十七日存案百中上方

所仕す所渡に成へ構へ地へ立

入りの所仕置へ候へ平加美

式部少輔長海寺の



由し中上書付一説仕く不長  
表構し地に入し其の佐州  
汲人夫之爲事し心持し溜入  
付置し其者致右街の致五節  
後溜扱仕し其味し上相何  
去己六月廿五日下知し以候  
仕置し付し其者以母構し  
地に入し其の爲事し其  
し其も今之度し其仕置可  
相何否其書取知し其候然

度其以前盗いし其年  
捕吐味し上其人其夫し其限  
其仕置し其返拂し後又構  
し地に入し其年其捕吐味仕  
不其之爲事し其年其長候  
仕置し其限其致右  
其の爲事し其致已其  
致中其年其返拂其佐州其汲  
人夫之爲事し其積中其溜入仕置  
し其何書文言不其其書



石鼓遊拂ふ成り上播り  
地へ立入りて舟遊り佐州金浪  
山乃水級人夫若也一に積り  
溜入中舟置り如数月お來  
難後り迎ふ人中合級を被  
扱か分團り堀色系不誠返去  
り居る層舟中返扱とお向一  
る産源後り上返拂ふ出候  
市中々中を播り彼地は事  
舟遊拂ハ此高地り信置り

川高り於て江之戶極是四方  
返扱り准り可中如扱去集  
扱五段播り地へ去り科ハ  
信播り地細細ハ多りり  
前ハ信置りり一等重り可  
中舟置り信置り又合將遊  
扱りお高り不汲扱りりり  
不層り有りり百字扱かり  
りの本罪お高り一等重り  
可中舟置り信置り又合本

罪之將遊放公一等寺重く申  
退放にお當る旨伺ふ無く振  
り候し各所産物其播場  
石土立入るる事分り候り申  
所産物運送る佐州金銀山  
汲人夫之者一々各罪之  
者者之者扱ひ申候播  
地立入るりの事分り候置  
申一等重く申申候事  
お赤山中候とお見え旨申

期不播り地立入るの事分  
り候事分り候し申候事  
候ハ今度にお伺申申候事  
候候不候事申上候候  
所産物就産物取立候事  
為上書申候事分り候  
地立入候事分り候事  
し申候置に地立入事候或  
ハ候申申候候事分り候  
候事分り候候事分り候



身構不中申す所は戸に止む  
二引第々戸に構へ在り  
戸長構拂り所の構へ地  
立入るは戸に止む所  
一前へは止む所一  
く返拂り申す申す不仕敷  
申す所は戸に止む所  
申す所は戸に止む所  
申す所は戸に止む所  
申す所は戸に止む所

身構不中申す所は戸に止む  
二引第々戸に構へ在り  
戸長構拂り所の構へ地  
立入るは戸に止む所  
一前へは止む所一  
く返拂り申す申す不仕敷  
申す所は戸に止む所  
申す所は戸に止む所  
申す所は戸に止む所  
申す所は戸に止む所

去中遊放中分積りおん  
於返拂出為拂りの様  
場おん立入つて是と仕  
いふおれ以て返拂り前科  
くつて將返放と為拂り前  
科くつて返拂り中分積り  
極置以て来り度不及何  
方と色仕立中分積り  
場おん立入つて是と仕  
りのいふおれ以て始末おん

死より別と有る後有る  
度にお伺り申し候は候可  
外款と有る候

三年三月

評談し五派





右のりの後同部内祀火所盗賊  
改加役、昔同人組廻りの石  
捕おれ、知者、州上々村、茶場  
逐去望、い、い、い、の、り、何、人  
い、い、い、上、私、お、い、引、返、有、吹  
味、佐、和、甲、州、出、生、多、年、者、お  
来、く、後、去、る、屋、年、七、月、坂、部  
能、是、事、町、事、行、く、昔、の、何、人、か  
い、い、捕、甲、州、乃、中、府、中、宿、多  
事、有、望、所、信、科、致、上、人

是、茶、場、の、入、り、お、成、り、た、る、事  
後、同、年、六、月、伴、先、か、逐、去、不、  
御、細、い、い、い、在、何、八、月、日、  
又、池、田、雅、次、郎、組、の、り、の、事  
石、捕、茶、場、逐、去、信、科、茶、場  
い、お、り、い、い、入、り、い、い、上、ま、致、所、仕  
置、い、お、成、り、た、事、茶、場、の、事、  
去、り、已、年、所、代、友、竹、垣、三、右、衛、門  
才、い、い、い、い、お、成、り、た、事、州、上、何、村  
小、屋、場、の、事、在、り、た、事、農、業

了了後に難儀に存去未七  
 月日不覚に郡令麻呂村地  
 内荒地起返場下の農家系  
 去り善人系外人豆乃由  
 百と又合右野先より返去  
 ころに戸表に所かま公稼い  
 多し積り横山町亦町目  
 去の才に目見に所録り部手  
 欠有る女小袖三不盗取返  
 去盗物に越八押取不川者花  
 左記の店去る所方二指り者多  
 備忘物太き清の質入り  
 一世より不手度目不あり  
 取付記取しより所を捕  
 ころ中より百吉己年町寺  
 初に所住流く家場人足所仕  
 今余書家場返去盗い  
 ころの死罪と有るに又合分人  
 足有る又懲上り村家場に於  
 て死罪なり所并裁奪細い



七月農業先より又々退去  
川より舟高三月町寺行  
元調中上旬に魚の差等お  
海に舟場は仕置々余々西寄  
場迄去りしもの部夜目を入  
りてま鼓をお極うし又合  
入りてま鼓をお高のり西寄  
舟高入りて有しもの舟中川  
舟高舟高の無合お紀し不  
舟高舟高限りし入りてま鼓も

遠ひ舟高舟中舟高然上ハ  
舟高舟高ハ舟高舟高又入り  
し上重鼓舟高之し如く  
上向村舟高舟高舟高舟高

申  
六月

評談しふ一紙

Handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in approximately 10 vertical columns.

Handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in approximately 10 vertical columns.

依父之科出仕置成以執

Handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in approximately 10 vertical columns.

安永三年年以後 七番

安永三年年以後 七番

所司代伺

一信父ノ科中返放成ノ初年

リノ方家以多ノ一度取カ候

手取候

去月十日

書面一紙付不仕又存候久留

島信濃子初級ノ旨付心

ニ事不之方也

之改曆十三未年

志嶋の 住持言ふ本志之  
依文の科中返放中返十已  
果之親教の四三方妻  
才高部島崎村師所稻若  
神主川上之儀才之類々  
く孫之儀是之方遠才攝剛  
東成郡放村野雨作多仲  
一人檀那寺伏見外所  
西本寺教出之志之方後去  
己年十四果成之寺西本寺

才子、住方之返出家中、度方中  
返放所免而本寺、本寺  
住方、本寺、本寺、本寺、  
本寺、中返放、所免、西本寺、  
子、住方、本寺、出家、後、本寺、  
一方、本寺、野馬寺、相、何、本寺、  
家例書、亦、本寺、相、何、中、  
本寺、本寺、本寺、本寺、  
本寺、本寺、本寺、本寺、  
知少、本寺、本寺、本寺、

今置る度出家。夜方寺院  
より相教りて向し上出家に  
可中付る但出家に成上江  
戸細細不仕任居定置他不  
しふ事と終志事行相相届  
不勿論  
佛来市地又八由強者且  
外所目見侍極し寺院に任  
職不仕若僧持不仕る不叶  
法も有る是

寛公後向し所出る後者しし  
松寺行相も寺行可相分中  
一又法太し能降身其澄文可  
法中付るし有る相向し色  
右三行候中遊致所免西来  
寺中子より致出家中付  
前書決定し色中後降身  
ともし澄文可中付分野馬  
可中付る相候所候後出然  
哉下寺存心



午四日

評改

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

寛政元酉年

廿四番

松平越中守左京大夫書所左衛門

一父科之次将左仕意之成守

源後

*[Faint handwritten text]*

死刑

お成

多

不

*[Faint handwritten text]*

而已、有、く、り、の、等、ハ、を、依、可  
良、置、非、花、父、ノ、罪、ト、シ、テ、去  
ハ、仕、置、ハ、以、テ、其、罪、徒、黨、ニ、重、  
對、

上、ハ、ハ、ハ、不、屈、ホ、リ、リ、の、ハ、不  
擧、事、ト、シ、テ、又、格、別、ホ、リ、  
于、此、ハ、方、以、書、云、云、以、テ、信、守、  
一、ハ、此、依、命、令、ト、シ、テ、家、人、是、侍、ハ  
ハ、交、死、刑、ト、シ、テ、是、等、是、等、  
ハ、中、途、放、ト、シ、テ、依、後、前、

例、ヲ、お、見、を、以、テ、定、書、ニ、以、仕、金  
ニ、成、リ、リ、の、ハ、牌、を、是、等、  
扱、ホ、リ、中、途、放、リ、の、知、事、九、十  
五、年、身、ト、シ、テ、親、類、ト、シ、テ、是、等、  
出、家、ニ、以、テ、一、度、身、寺、院、ハ  
お、預、ク、リ、何、レ、上、出、家、ニ、可  
中、途、放、リ、者、ト、シ、テ、是、等、  
是、等、は、何、レ、死、刑、ト、シ、テ、  
是、等、を、是、等、ト、シ、テ、中、途、放、  
お、預、ク、リ、の、元、極、ハ、お、知、事、

科條新典也其見乎中儀  
不効亦作不何進以力  
可中不各法度官前例也  
其由不其由也知改志難仕  
此度者刑以改而法者有  
其也引高可中不各法度上  
ハ自己存委而已也其由高  
心的高也習可中上目高也  
其由也其由也其由也其由也  
其由世以前例也其由也

其後也其後也其後也其後也  
其科多也其科多也其科多也  
其教也其教也其教也其教也  
人其由也其由也其由也其由也  
其由也其由也其由也其由也  
拾也其由也其由也其由也其由也  
其由也其由也其由也其由也  
其由也其由也其由也其由也  
其由也其由也其由也其由也  
其由也其由也其由也其由也  
其由也其由也其由也其由也



上は下は不届有る父は仕置

お成るもの侍は侍書面

も色役令侍志は不届

不届は子に在り例は侍

せは成るもの然れ侍好

一侍候父は科不届下を以侍書

手候は可有侍書部は候侍書

仕は候侍書父不用侍書親

科は下は候侍書親仕父同様

仕置はお成るもの子に才分

才分は候侍書上初年侍書

仕置は候侍書父は候侍書不

届下は候侍書仕置は候侍書

候侍書家人侍候侍書父は科

候侍書候侍書引續候侍書科

候侍書父は科子に候侍書

候侍書親候侍書候侍書成

候侍書候侍書科候侍書父は

候侍書候侍書父は候侍書

候侍書候侍書人情候侍書

教訓も多油以住るも子

無事住るも父の存念も

語仕多氣味多か子と科父

此も不足也中侍と及ぬ

上も書業も多病に

誤も多病中上も病に

一父死刑も子遠修を

遊散との有定も

其出家新も候中

色父と科も遊散

お成り中

と百以母も

一父も

祝詞

上も

父も

産

六日



亦居之町不申才又後評後  
 仕可申上居之任事以  
 此後父之科下つて在邊中  
 之遊放亦居之任事知年之  
 入歳之親類之皆領之可也  
 任事之親類之皆領之可也  
 各々之居之任事之可也  
 一之於父之任事之可也  
 任事之家以絶仕知年之娘  
 實心之居之任事之可也

可仕親類之皆領之可也  
 任事之家以絶仕知年之娘  
 實心之居之任事之可也  
 亦居之町不申才又後評後  
 仕可申上居之任事以  
 此後父之科下つて在邊中  
 之遊放亦居之任事知年之  
 入歳之親類之皆領之可也  
 任事之親類之皆領之可也  
 各々之居之任事之可也  
 一之於父之任事之可也  
 任事之家以絶仕知年之娘  
 實心之居之任事之可也

百  
 宣六月

評後之居之任事



別紙

小普請組

坪内式部組

高拾儀を人守扶持 竹沢紋次郎

右より後去申年不届有申江

戸掛

任付家形絶仕知女へ娘を人

有し知引所養育可仕歎氣

氣續しその年以迄く可仕世

話後しりのに新置養育可仕

好共末し養育可仕の年以迄

難儀仕く可仕次郎娘に扶助

米下し物仕度取坪内式部

新右娘序分仕とく由る云續

即人扶持可下し

別紙

寛政十年年頃  
大坂町寺  
成瀬周情  
一父之信科  
以之の之  
元山丹波  
松尾守助  
松尾官司  
松尾音吉

寛政十年年頃 三十五番

大坂町寺

成瀬周情

一父之信科

以之の之

元山丹波

松尾守助

松尾官司

松尾音吉

松尾音吉

亮





安永四年六月廿七日

安永四年六月廿七日

大坂府代官

一拾五匁以下三匁以上

二匁以上の出家方致方致也

子儀子孫致

去月廿三日

去月廿三日

若上々方面一覽仕下大坂元九

帝右衛門所元致源七借屋等所

同所攝屋在依七家子攝屋

九乙

屋敷之藩支配借在紀伊必屋  
去新將捨拾三歲之者  
道如唯立其町相去芝居  
亦見物之形或側に在立す其の  
し孫元之者置く紙入也今三  
拾三之友有るを盗りて不知也  
之月親善為り親置拾三歳  
一其如或之上立其町中其後此  
一度生必中寺町法喜寺出家  
親以多し親以仕置りお成

之子立其町にお成り初少者  
親置り院之親置出家仕置り  
其内産り其子身も其子も  
親置り親置り出家親置り  
く保不相見く身相何中  
此後土岐義徳寺其親置り  
并年中上親置り立其町  
亦免出家仕置り中親置り  
位其下谷合其上町中其  
其内産り其子身も其子も

竜泉寺町家三次郎大進

方は在公三若出置し不所大

可致不在三火也被入持か

依科牧野大陽寺無三三三

鴻中分於之儀上親管六

置於四葉、其成、処也

所欠出家為仕原名武州且

立郡孫三郎新田村清亮

新出、越也、以相向、不向、

色、不、後、三、修、有、三、有、法

竜寺新、色、於、松、也、也

而、免、才、子、三、仕、出、家、三、致、

松、可、戸、後、三、三、後、可、然

部、在、存、

未  
三月

評後、三、三

安永八亥年八月七日  
評定所一應  
書面中上、額、惣編、小、江、派、紙  
後、右、左、色、お、心、地、可、中、右、左、仕、寸  
所、仕、寸

安永八亥年松平右京右大夫辰右衛門

北四番

一應評定所仕置

評定所一應  
亥二月十四日

為八月七日  
仕置、  
惣編、  
上、差、上、右、寸



一 色死罪以上

公儀以仕置に相成振以候に

了計且又死罪以下に科多

熱漏に引候に取替に高に

熱漏出に以書付に越言右に

高に候に年を以評候仕候

右に色死罪に

一 色死罪仕置に決定ハ熱漏に科

し次申中申に在法に申分方

申候有に死罪以上以下に

別言年丙症に候に熱漏に立

候に多死罪以上言盲人に力

及に申に候に

公儀以仕置に取候に申分死刑

心出に候に

公儀以仕置に申分方に有候

症に尤非人仕置に候に申定

書に穢多彈に候に取候に申

し仕置に取候に申分有候

し候に在候に以上

公儀多其仕置也 任分在是處以  
下其彈左邊下級一其為仕  
置中其下級中級引級也  
百壽在引級其仕置也任死  
罪以上其下級中級  
公儀多其仕置也 任分振引級  
其下有引級百壽其下級也  
其下級也其在引級也其在引級以上  
其下級也其在引級以上其下級也  
公儀多其仕置也 任分在是處以  
下其彈左邊下級一其為仕

以任有育人一任有島也其下級也  
一任有世也其下級也其下級也  
任死罪以上其下級也  
公儀多其仕置也 任分在是處以  
下其彈左邊下級一其為仕  
置中其下級中級引級也  
百壽在引級其仕置也任死  
罪以上其下級中級  
公儀多其仕置也 任分振引級  
其下有引級百壽其下級也  
其下級也其在引級也其在引級以上  
其下級也其在引級以上其下級也  
公儀多其仕置也 任分在是處以  
下其彈左邊下級一其為仕

一 六 在 不 也 叙 熟 録 出 書  
分 之 録 之 八 在 法 之 任 置 極 之  
之 候 身 之 在 之 分 之 職 十 老 亦 之  
評 議 之 中 分 之 事 之 亦 守 區 之  
二 亦 成 之 百 熱 録 之 十 在 法 任  
置 之 條 之 叙 評 議 任 之 亦 一 新  
有 人 之 候 在 遊 放 構 場 亦 亦 武  
家 出 亦 亦 之 構 必 之 亦 任 亦 亦  
一 亦 之 候 亦 亦 成 氣 亦 亦 亦 換 授  
勾 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

友 之 在 法 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
之 構 團 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
中 務 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
姓 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
引 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
一 分 論 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
以 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
有 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
山 城 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

郷圃為留可移部之寺好之依  
 有物心録尾如之書付下朱書言  
 誦後之飯在申上之  
 想添長か書付  
 一志近島之儀之例近例之隨  
 告文管采所上之友不在申付  
 三子津お構進段仕度以不  
 案生國或六部之國三子國外  
 二お構之儀も有之在部  
 候上上

此儀去近鴻之有之刑之親類  
 永く新押込置可移以相共  
 一宣高島地杯如之國々之修行  
 其儀如候之出世仕才上持此  
 在之檢校勾高之在段多勿  
 誦多分ハ親元怪之の在之  
 不乃有在之有右之在之  
 想添之可申之而之新願意  
 之儀可有在之在部之告文管  
 朱元上之友不在申付江戶

十里四方武蔵一國名山城  
大和和名攝津且生國也  
予い多し一國を攝津放  
中付不然哉  
但尚人名前は田畑家屋  
家破欠所

右同以

一重遊放お弟くあは檢校は  
在りて在る引下今檢校  
二一十江戶十里四方生國

京大坂構下中付七子存り

一勾當以下一者ハ今日中付  
次官仕は地を給りて今も在る  
間在り拘り石中江戶十里四方  
京大坂生國相構遊放仕  
度七子存り

此後檢校勾當以下其告文  
情來其上公官不在り中付  
江戶十里四方武蔵一國在  
山城攝津且生國也

国志撰述放中付可然哉

但欠所同以

右同以

一中遊放にお中々、志江戸十里

四方京大坂お撰述放仕度

寺存以

此後若文装束、石上石座中

付江戸十里四方武藏一必系

国志撰述放

中付可然哉

但中人名前、田畑家屋

系、多所、家、殿、家、撰

右同以

一遊遊放、の、江戸十里四方お

撰述放仕度寺好以

一、此、候、若、文、装、束、取、上、欠、及、不

症、中、付、江、戸、十、里、以、方、系、生

国志撰述放

付可然哉

但田畑中欠所

一江戸十里四方迄放、当中刑ハ

日本橋小口方ハ七里宛罷止

圓、居村を搦迄放、可申付

ハ

一江戸拂、当中刑ハ、品川板橋

外恒、中新、深川、宮谷、大木戸

一、外内、深出、生、村、西、多、村

ハ、搦、迄、拂

一、不、拂、当中刑ハ、在、方、ハ、の、

居、村、江戸、ハ、の、居、町、を、搦

可、申、付

右、右、右、右、右、右、上、仕、置、ハ、後

左、法、ハ、可、申、付、申、付、申、付、申、付

ハ、書、面、ハ、五、十、心、地、存、ハ、外

公、儀、ハ、不、拘、伸、付、留、仕、置、ハ、後、志、吏

ハ、先、例、未、止、以、可、申、付、勿、論、書、白

面、ハ、五、極、道、ハ、五、十、科、ハ、不

ニ、事、ハ、五、道、以、下、ハ、刑、ハ、五、十

公、儀、ハ、仕、置、ハ、申、付、後、ハ、可、有、ハ

ハ、右、ハ、越、職、十、老、ハ、申、付、申、付

身ノ親類ノ可致方也無録ハ  
仰候可然卦ニモ存ハ

亥十一月

去月十二日所候成曲測甲斐  
邊以上ノ産頭在法ノ候  
ノ身ノ又也録ニ澤檢校  
ノ書付一冊又付不先  
ニ送致也也中ノノ之檢  
校ニ送付リ、産を引下ケ

日檢校ノ付中ノ上江戸十日  
四方各生國系大坂攝事  
方中立ノ候在檢校ニ在也  
外中ノ産ノ始一冊ノ之  
不中身ノ在從

公儀ノ始ハ、始中ノ  
所先々ノ用ハ永代末産  
身勾當以下ノハ、中ノ付  
ノ中ニ産仕ノ始ヲ替  
上中ノ産ノ始、不物江戸







おりのの家藏の上の物  
は五科家藏のそのハ  
乙貴文或ハ三貴文五科  
亦定は存官見物り  
つ所去る妻を急度叱り乙  
拾文以下は細くつて叱り  
お高可仕裁き存け

一増築おりの侍以上は  
武士屋敷より仕持要り

廿七日のりのも亦定見合高

人走遊島より有出産官  
高例を御見ふり  
見物り  
三十日押込高お高可仕裁

いも存け

子  
十二月

寛政二成年代  
大坂町城代伺  
一、女盜賊市仕置、後、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

寛政二成年代 寅二番

大坂町城代伺

一、女盜賊市仕置、後、

二、

三、

四、

五、

六、

七、

八、

男の死に及ぶ事  
男女の別を以て  
以て守る事  
例書  
上  
盗賊  
如  
書面  
此  
例有

法仕置男  
定  
味  
如  
海  
斗  
毎

寛政六寅年三月廿五日  
死罪にお  
おつたものも死罪にお心  
極多に候可候故に七日存  
候

亥  
正月

評談し五紙

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政六寅年三月廿五日  
五拾七番

右所盜賊改  
長谷川平兵衛

一七拾歳に成りし  
故に仕置し

候評談

去る三月廿五日成りし長谷川平兵衛  
お向し涼川海邊に五所中五所  
有る店市を以て店以西意  
候七拾歳に成りし故に仕置し  
有る外増えし

九

前より教と申候事、当分の  
ふり付七拾以上、元治元年  
五丁より、新井、順正、以守、以  
此後、吉成、年曲、瀬甲、非文、  
手限、お向、上州、岩本、村  
人別、の、当分、同、不、形、系  
村、海、六、店、の、所、在、を、表、八、子  
一、十、年、次、候、事、助、分、計、人、衣、  
而、買、入、候、事、お、頼、り、候、様  
為、取、立、の、心、附、買、入、候、事、

順正、扇、子、教、と、申、上、り、候  
六、拾、歳、以、上、の、教、所、仕、置  
候、事、候、付、候、事、も、亦、候、事、  
以、候、事、候、付、候、事、も、亦、候、事、  
教、と、申、上、り、候、事、の、八、拾、歳、以、下  
候、事、も、教、所、仕、置、可、申、候、事、  
和、九、辰、年、候、事、書、付、も、有、り  
知、事、候、事、の、事、も、教、所、仕、置  
申、候、事、六、拾、歳、以、上、の、教  
所、仕、置、候、事、の、事、も、亦、候、事、

伺ふ心持に所在る候中上々  
色取御以例出候所は弟  
三月より書付ハ弟分は候  
も所存、官定定ハ立降  
以り所仕置は候所も可  
有出候所、再遊御談北  
く不取致事致は候所候  
由分と有る事、御外  
所信置御物立申候心  
相有る下、不可存候事

候と申す所は、所存下  
而も増要内、御制、  
多頭、御以、御後、  
御成、御一統、御思、  
御為、御止、御極、  
之も有る、御増、  
御年、御制、御禁、  
御利、御欲、御抱、  
御後、御事、御犯、  
御是、御是、御是、





*[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side.]*

寛政六寅年丙渡 六拾七番

町吉新

池田流渡書何

一八十歳以上、若くは若くは

評議

*[Faint handwritten text, likely bleed-through.]*

池田流渡書中川勘三郎上等

山里町庭方小島庄左衛門初

筆行仕立一件、内右庄左

一祖母身之候八拾歳余

し、度五十日押込と相伺

替り申すも相當し可致るは  
八拾歳余りの極老の儀に  
外内各弛し以後も可有る  
例をもお紀誣改仕可申上  
御座り

此儀押込仕置し候に他か  
ふる仕置を違テお申上  
申す急牢又ハ身領極老  
ハ極老りの事も悉く  
于以候事も各所迄傳

拾五歳以下りの内仕置候  
者人を教し又ハ火を附し候  
し重刑りの事も是迄  
ニお成盗りしりの大人  
り内仕置か一等極々内定  
も内仕置候事得し候事  
を以て好い官例をもお紀  
り知老裏り内仕置弛し  
例も各所迄傳候事領  
ニおお伺りの極老り上病



能事を極るりの極老に連  
お高も古仕置と弛ゆる  
能事上候と守存の範  
守の筋と有る百友候中  
上候は法注の然知右存人  
候悴に八重病に付以順お  
親と有る男子と有る親  
娘と小島店右候と男子  
と積書と有る丸巻  
子親も難致と存込縁者

町人伊勢相を右店右候の  
い多し以抱入お親は不  
難候ありと存不難に斗  
いししは右に八重実子  
出置と有はりの八重子親  
も難成候と存相違の筋  
他の嫁しと有りて女候  
くく親又と有家と有地と  
厭ひ候と有無謂候と有  
し百池田筑後守中川

勁之即中上之極押込之相  
高も可仕捨亡歳以下  
と遠之老年より可仕置  
弛之候可定之と毎有存候  
高四月曲側甲斐子知  
極老よりの手扱と弛押込  
積之仕置漸酒中上  
逐之作身之例も有之  
了了實之随ひより極老  
と可仕置難弛とお極中

筋も毎有存可先と進可  
候之候中上之候之可  
候之可下之候成之可極  
可之候可可智弛之候可  
有之可之候可可可  
候之可可之可合候候仕  
候之可可之可

實六月

押込之候之一種他か不為仕

戸建並に置るゝと云ふ食更  
ホ名支名ノ格別忍ハ難キ  
難儀も多ク故老年ノ儀ハ  
中あり〜是ノ中付ク事ト存  
且又救日入牢ニ付替ハ不及以  
法儀も有〜法儀押込宜キ  
例不お見事經テ可中付リノ  
免年々上病氣ノ付押込  
付ノ例も有〜法儀お高ノ例  
多〜多クハ拾歳以上ノ押

込中付ノ例有〜上ノ存も〜  
何〜無押込中付ノ方ニ有〜  
魚〜存ノ事

此ノ書所ノ儀ノ付テ無評  
談仕立〜是もお成ノ方  
書評談書花名尋〜以書  
以遠ハ〜も不お成計ノ付  
下ケ〜儀中上ノ下ケお成  
以事

池田罷後中川勅三郎中上  
山里所居乃小島居在遠初筆  
以仕置一件心取居遠祖  
母身八拾歳余との  
く五十年押込と相回替  
ハおあも不改く坊坊八拾歳余  
極老の付外替弛く  
有るが例とてお礼福祿仕  
中上方の候  
此儀松已歳心下との遠

老年りのの仕置弛く  
定も年居在押込とておあも  
お坊坊坊人相廻り  
次身二事申実とて弛  
白く難弛とて極可中助  
も年居在居人候と極老  
付とて候も有る  
右とて候もお合再懸評  
祿仕候に押込とて成  
極老の付外替弛の例も



以庄八拾畝以上ノノ押  
込申付ノ例有之ハ官办ニ  
見合池田筑後守中川  
勘三郎何ノ色乙十日押込  
可申付方以候所候哉  
幸好ハ

寅  
七月

評議ノ色海

寛政七卯年迄候四十一番

町寺村  
小田切土佐等何

一庄中取締方檢校申出ハ

候方評議

去月十日評議仕申上合候  
申付候成以小田切土佐等申  
上ハ庄中取締方檢校申出  
申付候方何書一覽仕候  
方檢校檢校申出

玄緯之儀亦別紙寫之送就  
 於官本調家支以助也相  
 見亦中其可也之也亦置  
 之於不仕也且其後時味然  
 檢校勾當、在院在府持  
 院文之伺、無所上、之、何、  
 檢八年以前成年時味、  
 一、檢校勾當、在院在府持  
 一、有金院文、八、石、河、也、深、矣  
 流、院、在、府、持、院、文、金、八

銘之備、之、知、合、各、利、足、多  
 之、金、言、之、也、一、丈、年、賦  
 之、積、之、以、一、返、之、表、立  
 以、耳、音、人、在、之、多、金、除  
 豈、不、如、之、成、育、人、若、也、何、  
 所、家、難、也、情、以、一、勾、當、檢  
 校、之、也、相、進、之、也、不、可、中、一、片  
 中、儀、有、之、之、檢、太、金、子、之、儀  
 之、不、一、不、所、緯、之、也、有、之、  
 以、旨、也、一、檢、檢、檢、校、坊、檢、校

不中少是と迄く利分出諸  
云々候に有者成年お候に  
文に系し世度并指し可  
候に有候に候相伺右に締  
没檢校有候に候に候に  
土儀有候に候に候に  
其の及八者極増而檢校其に  
紀に候に候に候に候に  
右に候に候に候に候に  
若出文に先其に無合利分

書面に分お對有候に候に  
然り書に有候に候に  
跡に上お懸候に候に  
以助合遠に候に候に  
候に候に候に候に  
其に候に候に候に候に  
面に候に候に候に候に

此候に中候に候に候に  
以候に格別他に引合候に  
其に候に候に候に候に

此物之不安所以有之故也  
不言之事置之也如何之有  
之有在外部保任其代貸金  
也之利分其面之外相對  
有之利分又ハ其助合不宜現  
文亦有之有發其難中右  
神之代貸金ハ不及出訴同分  
多不面之有也故居之役故  
可有之有之有代貸金之役故  
其ハ先之退之也作出之解

之役也有一上ハ右其締力  
之役在中限ハ其代貸金之  
論之役若先之ハ其助合  
其代貸金ハ其代貸金之有之  
ハハ其代貸金一也之代貸金  
相對之役其代貸金之可  
其代貸金ハ其代貸金之有之  
其代貸金ハ其代貸金之有之  
其代貸金ハ其代貸金之有之  
其代貸金ハ其代貸金之有之

順水置いし道も在申  
りの共助合不宜貸附り  
不致様可申申分中河且  
持八年以前成年熱録流  
頭有はお振出り論文は依  
古古作り親多事友川島檢  
校分九人官合ニ子利貸附  
り帳不層有在法に可申  
分中河の然り及前も町  
人百様も勿論に成浪人

の亦高利金貸附りの叱  
味にお成り分ハ論文有合  
有其上にお成檢校若貸附  
合古申文も無持八年以前  
古儀懸り有り亦又も右  
神石居仕り成り有世及味  
仕りりの在ハ不持り有合記  
文有ハ然り上も様古仕裁り  
順お向り不何りも可仕分り  
仕振り成り有右成年お振

置し沈文之儀も世に取上  
し沈文目録し後之儀是  
是利分亦し讀取し上公事  
伺し色右成年相渡り  
沈文し分し世に取捨し  
可中し分し相渡り可然哉  
之書好し人にも之儀も

卯  
十月

寛政八辰年十月九拾三番

大津市代友石系在云何

一実父公幼弟を更養父花人主  
諸人より仕置し成り女は後分  
譲後

一江州大津園寺町捨皮屋忠孝清

借屋素名屋友彦不西云斗

以多し一件し内勢別素名

郡赤次登村漁師吉右衛門娘

いれ候事公稼之御出之親  
去古申ふ申す不存之候  
友蔭の中仍お頼願申上  
許之申す事奉公い多し  
死生之候不承之旨度此置  
万一申す味書朱書申上  
此候いれ候事御出之村之  
前い多し仍請不承之旨  
親去古申ふ御出之旨  
之の申す候御出之旨

友蔭申す候也不通禮文御  
美言女之申す之旨実父  
去古申ふ御出之旨候事  
父友蔭申す仕置御出之旨  
去古申ふ御出之旨人御出之旨  
候事人御出之旨御出之旨  
之旨御出之旨人御出之旨  
之旨御出之旨御出之旨  
御出之旨御出之旨御出之旨  
御出之旨御出之旨御出之旨





寛政十二年申年... 五十九番...  
勘定寺... 石川左近... 監伺...  
武州坂石村... 森林寺... 寅子不若...  
初年... 附火... 一... 一... 一...  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..

寛政十二年申年... 五十九番

勘定寺... 石川左近... 監伺

一武州坂石村森林寺寅子不若

初年... 附火... 一... 一... 一...

島中... 附火... 一... 一... 一...

評議

... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..

一先... 何書... 上... 武州坂石

村森林寺寅子不若初年

一附火... 一... 一... 一...

仕置内者亦有下付者迄是  
 中村松之蔵迄一親類に就て  
 一之りの内者度不若親類迄  
 清候迄近年迄是より江戸  
 表に下付如親類と云ふ中付  
 仕置中付候と云ふ迄ハ右  
 清之儀ハ下付置下付仕置  
 一不若候大人同格と云ふ  
 下付迄去又ハ何格と云ふ  
 亦不致於下付候年々下付程

是置内者心持亦下付も清  
 仕置中付候と云ふ人候店  
 借下付刻多家格高ハ御  
 下付迄送付申上候御火  
 業迄外為下付不致候心持  
 不致迄候と云ふ下付中付  
 故者迄本年村上紀後与所  
 下付迄細上付仕置中付  
 故者迄町詰志村一店迄  
 清石仕置市候同年十二月廿七

塗物銀兩集おる知金  
子不徒云云何れは後之人  
身即多縁立彼りし小庵此  
月の上傍孝性も彼是唯り  
迎頻心外にお成布りし其  
迷惑可為致在火消人散集  
を面白好回カ夕七時以火神  
火を古神に包隠し持出  
回店已し所居宅裏に其  
此所火以多し其上に置り

右始末お取らハ身が難立  
好一旦返去りし後其意不届  
至極く其初年其の  
行意島中派指己歳中其  
に居るを置り例も此居る前  
書不若後も其意島中派指  
己歳迄過ら居るを置り方可  
然れども好く其意島中派  
此後子心も其意島中派  
其の意定ら居る島中派





天保八年  
六月  
御為又出御樂  
御為又出御樂

天保八年申年松平越中守及右書六右衛門

守已入命書入之四拾三番

一拔荷出制禁之候之御訴候

御訴候之御訴候

去月廿五日御訴候之御訴候

荷之候之御訴候之御訴候

坂場長政所之御訴候之御訴候

然御訴候之御訴候之御訴候

書而入之御訴候之御訴候

御訴候之御訴候之御訴候

買渡しの有る取扱書は  
坊も出ず仕り買渡しの費  
減省の目的を以て  
作付不面し取替おえし強  
分先く札不及お知次第  
時と歳料の別 何れも自  
扱符お止りしは右の扱  
一町に在り解知り度以下  
しりの有る先く結札無  
天候と存知急心持遠く候下  
候

府町しるす歳料の取替  
之已に解有る札ありしは  
京大坂堺長崎の各所  
仰渡り候も不有り候  
古解書案指し候  
古違別紙の無き  
一扱符し候し候し候し  
お札の度字保三成年別紙  
と無し候し候し候し









至長崎寺新お伺一程の諺  
後、信下、成、も、有、上  
安永三年長崎寺新お  
伺、接符一件、西、度、人、  
馴、合、洋、中、大、弘、長、向、若、物、取  
御、申、接、買、い、海、外、の、死  
罪、状、竹、付、回、七、成、集、大、坂  
所、幸、新、お、伺、長、崎、度、人、屋  
費、上、忍、入、接、買、致、し、の、  
川、早、上、獄、門、

任、行、外、取、し、物、中、を、島  
に、信、付、し、も、有、度、有、高、所  
死、罪、ハ、難、成、候、と、不、幸  
存、在、定、者、也、接、符、有、信、置  
し、今、案、を、長、崎、寺、新、お、伺、  
進、子、者、一、件、ハ、附、し、信、符  
也、一、二、有、信、百、有、信、置、し、  
方、有、信、符、も、有、信、置、し、  
存、在、定、者、也、の、也、買、取、し、  
の、也、回、格、死、罪、状、

任外より不有は存外と評  
汝仕く後多む根首の原人  
とく直買以多し夫より  
貴族の事は既く買ふ事候  
多き事候より不勿論候と  
扱是れも存買候なり又  
候と多と裁買候も扱  
為とる存買候と死罪  
又とる候と裁買候と不  
裁買候と存買候と候と

裁りりのこと玉より死罪を命  
と候と多始末と裁買候  
と評候と上とて公買  
極とる候と上と存候と  
裁買候と存買候と買候と  
と存候と買候と一件末と  
と候りりの候とと候と仕  
買候と仕候と外扱候と  
候と不存候と出候と不候  
不と買候と買候と候と不

正地、其序、右、新、ハ、是、と  
之、所、擧、ノ、始、末、亦、遊、放  
又、其、家、財、所、上、或、ハ、三、料  
亦、之、也、仰、付、ノ、例、も、有、之、也  
冒、右、例、と、以、譯、後、仕、中、上  
可、ノ、後、ハ、序、信、ノ、者  
以、仕、置、ノ、功、身、ハ、之、付、ノ、始  
末、亦、亦、中、以、始、末、ハ、一、の、也、  
も、擧、若、其、不、而、ハ、不、其、也、  
後、ハ、一、の、也、買、賣、ハ、一、の、也、

格、ノ、京、ノ、内、仕、置、也、仰、付、可  
然、其、ハ、見、込、出、度、尚、又、被、  
荷、ノ、儀、亦、亦、亦、制、禁、也、  
仰、出、ノ、上、ハ、右、ノ、也、也、  
仰、付、ノ、可、也、亦、存、ノ、也、也、也、  
譯、後、仕、中、上、ノ、儀、也、也、  
一、本、文、ノ、語、を、以、先、を、言、譯  
後、仕、中、上、ノ、冒、京、古、被、壞  
長、崎、寺、行、ハ、ハ、以、寺、一、書  
一、も、利、ハ、不、ハ、其、極、也、

一 西国中五九洲迄、一紙

一 西国中五九洲迄、一紙

一 西国中五九洲迄、一紙

一 西国中五九洲迄、一紙

一 西国中五九洲迄、一紙

一 西国中五九洲迄、一紙

一 西国中五九洲迄、一紙

一 西国中五九洲迄、一紙

一 西国中五九洲迄、一紙

古解書

古解書

古解書

古解書

古解書

古解書

古解書

古解書

古解書

古解書



科と省を三ヶ月迄は  
ありて取らざるの事  
人々に格差を致さ  
たしへすとの也

月

以て再不正し  
不可お求む  
及子連を  
物に  
訴出

根買仕者有  
取らざる  
格差を  
訴出  
不可お求む  
及子連を  
物に  
訴出



右亦、お宵さくりの小岩一  
子、神々可中舟りの也

*Faint handwritten text*

*Faint handwritten text*

*Faint handwritten text*

*Faint handwritten text*

*Faint handwritten text*

*Faint handwritten text*

*Faint handwritten text*

京大坂塚長海

車行

*Faint handwritten text*

以取折長海表を以用

候以方

候以方

京大坂塚長海所

解知

候以方

候以方

も書返りの七回罪なき  
く糸只七回書返りの  
よお礼遊り子廣く味  
常十入廻り年七人の礼  
も及進津子松お年ご  
の書六回書返りの有る  
強り支下り礼不及書返  
りのりも書返りのりも  
お知次書返り味書返り  
可おおのり句端有る色

迎おおりの子筋りの成  
折置り子書返りり成  
強り入込書返り子筋りの  
有るお礼味子書返り  
中振動各致随分心附聊  
怪書成有るりり味  
可お返り

月

西國中必九州四國也  
領主以達書案  
享保三成年六月  
...

西國中必九州四國也

領主以達書案

享保三成年六月

...

一度私持紙...

...

...

...

...



一何者何一上仕置可事

以上

六月

右之色字保三戌年

尚又此夜按若石正之候

候中夜若石正出京方坂

长崎所之候解書就正出

候中前若石正候中若石

正年久友相成之候

中若石正候中若石正

目

美夷國松源之示

一上若石正候中若石正

候中若石正候中若石正

候中若石正候中若石正

候中若石正候中若石正

候中若石正候中若石正

候中若石正候中若石正

候中若石正候中若石正

候中若石正候中若石正

寛政四子年... 大坂町... 一出不知... 市の... 去... 中... 町... 某... 下...

寛政四子年... 大坂町...

一出不知...

市の...

去...

中...

町...

某...

下...

下...

某...

町...

中...

去...

市の...

一出不知...

大坂町...

寛政四子年...

道以多一筑後園名律志

古之誠同人世作遊以遊歷

花欄之室至子日五拾五貫

目余代銀七百有目買法去

至西至月八百有目法梯か

いかにんさー！仕立一処

出不出に唐花欄賣買

一室に子の法味有銀

大所にい身右買法花欄

法味買買と云ふ法後難

と程思入る月名か法分訴出を

出不出に法と不存言中と法

任言法不存出に唐木ハ出元

不存分法に唐木買不存所

上在神出元と法分不存

買買と法に不存に法分不存

訴法に法分不存に法分不存

分可中法分不存に法分不存

上々唐木ハ去北兩年以下知

法分長法分不存に法分不存

於舍不立拂之積中該引  
後可中計為然後上果之  
庭在長海高堂方障水  
於成百數對也亦在可於  
彼表相拂之積可任也  
書以以相向中亦以  
寺後大坂所寺行中上  
書而之積之也花欄也  
中立伊之積下果也唐  
木之恆合方見改之也花欄

之也年之唐木之白紅木同  
積之果之也唐菓  
間之菓積中實其也  
花欄之也年之也唐木  
之也紅木之也唐木之也唐木  
世積之也年之也唐木之也唐木  
河泉之也唐木之也唐木之也唐木  
右領之也唐木之也唐木之也唐木  
八月以之也年之也唐木之也唐木  
之也唐木之也唐木之也唐木



於九一向相念不中分領之  
家在中出入頗多前若花  
欄之中立伊多清小若  
於不亦在出所不正之亦  
於又古出所正及不之武  
買也之德古為可清不  
於念後身可清也難也  
於亦之於不亦之亦也清是  
難致如不亦之於後之亦上  
之亦不不德古亦之亦亦

之亦七殺伊多清之亦亦  
亦亦不及亦上保伊多清後  
於德亦亦之世清也之買也  
於古出元始之亦亦紀之  
亦皆之亦之料福之亦皆  
之亦亦亦亦亦亦亦亦亦  
多一以後之亦亦亦亦亦  
之不及沙清以亦亦亦入  
於亦亦亦亦亦亦亦亦亦  
於亦亦亦亦亦亦亦亦亦



買諸一花欄七給友不去年  
就中後難了給想入了百是也  
度方許亦出不出後是元存  
方中亦不候多請者出了度本  
去出不了分後是度百不  
跡元上者神出不了分不和  
標四只所了後八不坊也度是  
其自許仕了後了外台了不及  
沙法方亦中派能山脈相同且  
其上了度本了去也爾年以了知

色是給寺行也知合長修  
其合不了拂了積中後引後  
不中許有然終了不了度是  
也涉表商賣了障了也相成  
百及許了亦度了官能他者亦  
拂了後不仕許了候朱書了以  
如何中  
此後請後仕了教先了也中  
上度度本了美備難分  
了了方坂町七日行也合也



全度木と多相違相才多也  
坂可奉得と中誠と有在坊  
と七段伊多浦と有也と不  
度地と洛定傳上と家露  
摩花欄と中と亭と全傳  
と相才と有者伊多浦と有  
出取と何と通と取上替と候  
ハ先と言語候仕中と通  
候所且取才不取申可  
候と終と不と取度官候彼

地と取拂と以多と候と長傳  
表高賣才と客と相成中  
官取才と有度候片候と  
取と七七是迄取上と相成  
度物取と取捌才と遣  
と里と如何と有と裁と解  
と候と度物と編才と馳  
と相成と候と有と裁と難  
中取度官去と酉年以下  
知と張と以取申と候と候

後可然部、寺存い

子三月

評談、色紙

寛政五年三月廿五日 五十三番

大坂町寺存同

一出不面、道砂所扱、の一件

、月取上、物、候、付、評談

当十月十九日、評談、成、大坂

所、寺、存、同、出、不、知、道

砂、取、扱、の、一、件、付、仕、置、候

評談、仕、中、上、書、面、の、取、上、

の、候、去、上、南、年、六、下、知、







京大坂奉行不之欠不物未之  
内度紅毛打渡一不有之  
以事有不書立長崎表之  
之五調之上之支之之  
被之令之之地之入札拂中  
付之支有之令之長崎之  
賣拂之程之政之不可代大  
坂之世代之之任之之  
少

寛政七卯年三月 巳四十七番

大坂町七番目

一曰魚之宥怒方預多之唐物

按前之候御人之事一之候

付御後

攝州八部郡兵庫

東出町

延享七年

後屋

五助

右之候之候之唐

物賣買以多一之後に解  
有之心を改余人賣買以多一  
く物未訴出く身前科出  
然く上者意く古歴員可  
下教く後相伺く

此後此書く後く六此りの  
後去り賣筆く某種賣  
買依世以多一之在手に  
越く不くハおすく物不正  
く有物度く買賣賣拂

物如未可物取と厭ハ一旦  
只取くくく物取又く同  
物不正く賣買被く度  
近年物取く古解有く  
く身恐入心改後悔く  
く不正く有物持也の  
有くく訴出前科有  
怒く後可物取く在業程  
新依世以多一之太坂西出  
町次之請外部人ハ在業度

物入津亦有〜つゝる高  
く極及也該置く身本文  
薩州松之唐物入〜伝一件  
〜内次之請方より為す  
訴出く〜の〜者身別紙  
中上之書面〜紙を請措  
悦〜可致多め此の〜金  
拾四兩外、前名次之請と  
合之拾とて出金以多〜  
合代金四拾已兩分、唐

物入之請久た遠く買付サセ  
置前料〜次才も中支自  
許仕之仕置赦免お新法  
〜の申口より〜拾一兩  
〜の共多人教名お示上  
お知〜城守者申筆〜  
〜紙も古紙、冒此の気  
〜と〜前料は是免〜上  
お急〜只唐買可新法  
〜位申上〜の〜代金

四松乙酉ハ吟味中五助為  
所至ト有之一旦名落  
し一ノ子解了ハ無  
疾方不訴出々々本罪を  
身上三分二取上々三料也  
方為不申度者申筆ハ能  
く致ハ唐紙持返シ諸色  
扱前仕賣買之ハ何也  
不取止不届之何後買元  
不怀疑敷有之々不取

お求訴出。おろくハ金銀  
上之の物可取下之也  
扱前仕之ハ有之。金沙  
法前之ハ共元又可訴也。難  
令回教多々トハ共々料  
也。免一。古鷹員可取下之  
右ハ享保年中ハ解有之  
々。皆昔年久矣。取成之。付  
尚又取付出。取付書付。見  
公前料。之。免一。買付

置許出くそ不く月全次  
之信出きくそ不く月全次  
解く不くそ不く月全次  
板く通用給敷候もくく  
先く通用給敷候もくく  
寺新く惣合右拂代色に  
以か候も中旨は信候可  
持部く七子好々

己  
七月

評談く通候

寛政十年年頃後六十八番

大坂町奉行宛

一、朝鮮國産物、後、評議

去卯年不正、度、相、賣、買

以、多、一、件、違、咄、味、情、仕、置

、後、府、吉、向、日、長、濱、町

富田屋吉兵衛、借、屋、場、陸

右、助、後、違、砂、火、炭、石、膏

賣、捌、不、正、、度、物、取、扱、

後にも有るは孫友お守の  
吟味云々たる三品を朝鮮  
土産之宗對馬と事表所産  
及より買入る中土名牙朝  
鮮産物を送る元立は後右  
藏屋敷及事居は相尋るは  
元極定法は後ハ以前より各  
々方中より久世丹後と以勘  
定するは初級中對馬の家  
老吟か尋るは後にも有るは後

事居中より官對馬と方と被  
物換るは初級土産は元  
極有るは後丹後と事  
兼合るは公貿易は方と被  
もおかり有るは由は初級私  
貿易は方と被物換るは初級  
は後と事と被とお守は元立  
初級土産は初級は後對馬  
初級土産は初級は後對馬  
初級土産は初級は後對馬  
初級土産は初級は後對馬

可止期也世々々々丹前仕  
其不拘交易手廣以多  
所開之儀々々儀紀而已之交  
易々余數賣捌方ホ儀未  
其極之々々至不中々坐勿偏  
系大坂江戸之外之朝鮮  
儀事々産物前々々其極  
儀々々不々々儀斗可有  
儀々々高表之儀之上座紅  
毛持其化買物給及々々儀

可斗々々之好々丹後々々  
中裁者産物儀以其配  
々お分り儀仕度如何お心給  
其申一可中裁儀儀右卯年

七月何書長上中儀

本文々々迄お伺以後儀立  
三日朝鮮人々道砂  
を換り物儀文々其儀  
少々丹文取々積儀儀必  
国元々々ト裁儀丹儀登次



才於子表賣捌皮乃  
片對馬古留与居後しり  
書付若かく付与又之取

十何書居上中ハ

物居古以子對州し指登  
朝鮮上唐物し流書ホ之廉  
之分分唐物類し不相混走  
物後年し根五中一方於尚  
表乃し根極相何中今般  
云上置以不し不正物之無し外

唐物類同様可申忠助に相渡  
之極可仕方去己十月出下古故  
古書付之の事仰渡奉兼古し  
右而上置し不ハ忠助に相渡是  
古候以文書居上し之依し  
對馬古留与居以對州し  
若登し朝鮮上唐物不之候  
心以方亦相尋し不近年之  
之分五年以前寅年書出置  
以人參參葉黃參當飯林

麻山菜 蔓黄 莖五味子 知母  
遠志 細辛 紫根 蓬 砂石膏  
大芫 胡合 十五 品外 為試  
莖、為莖 芫、のろ 麻射香 大戟  
二品有、之、餘、不、向、後、若  
芫、之、後、有、之、之、度、每、以  
後、不、向、お、届、心、始、之、在、由  
花、右、拾、之、品、之、日、人、參、蓬、砂  
二品、之、箱、入、之、之、一、高、買、出、以  
共、之、外、ハ、蓬、包、之、修、賣、其、

之、子、之、由、別、紙、記、之、通、書、有  
号、出、中、之、元、耳、唐、菜、同、銘、之  
不、新、解、唐、之、有、之、之、不、高、買  
出、之、莖、唐、菜、之、お、給、不、向、之  
以、助、而、扱、之、族、も、出、耳、不、仕、哉  
之、更、以、之、以、通、之、而、調、之、後、其  
唐、菜、問、酒、菜、種、中、買、年  
外、司、共、呼、出、唐、方、之、新、解  
之、産、不、合、之、依、お、尋、者、不、之、由  
之、度、為、試、為、莖、芫、之、の、ろ、麯

香大戟志道表不不  
扱不對馬海居不在  
少宛手本為是出年仍  
司不為見改所調不物數部  
合十七不不日人參尚飯升  
麻山菜蔓黃菘五味子細  
辛石膏大賞の三唐射香  
大戟十一不志唐方と鮮  
産と不お分り參葉此系根  
と唐方と持液リ各と賞

苓知母志道秘四不唐  
方と鮮産打交リと持と  
お分り為と分別紙と色と付  
是出と右と色と付向付鮮  
鮮産物對馬藏屋發の  
賣出と右と砂箱誥以多  
一鮮産の録書為致と  
以急度お分りと候と産以以  
其早賣唐のと鮮産見  
分りあと分と唐茶同録が

不正の筋を混へ候に有る旨爰  
封の箱詰りたるに難費し相知り  
右聊元直候に相尋り可申候  
付見分り安き分ハ先上と通  
ニ若置黄岑知母遠志道  
破り候に唐方に似たり候  
有る者之由遠破ハ此等  
箱入に以多し賣かたせし由  
銘書亦し仕形も取書に依書  
付下ケ札を以り上と通り候

と通に相成り候に解産  
候に取分り候に依書黄岑  
知母遠志候に依り遠破紋  
同様ニ者四不共箱詰り上候  
解産産何れに何れ入と銘書  
封中亦以多し一不取り分ハ  
賣出度毎に後取らば取座  
勿論別紙十七不し外取ら  
賣出に不有り候に依り  
かゝ候に取分り對馬に留り候

平渡之極可仕哉

書面之四不盡出之候事

其ノ中ノ如ク其ノ友毎度某

問屋某程中買年行日

尤ノ右ノ候中候置了了是

其ノ心持ニハ此等相詰上

朝解産ノ限事ホ有

候事不面ノ取扱ニ相結シ

之助有ノ官者哉事極

且又心身新ニ居送ノ事有

其ノ様又右年行同其

相尋度方ニ相混ノ候也

有ノ一ノ紀ノ上ニ此候

滞ノ語ニ隨ハ同振事

ノ様ノ事

一 右四品ノ分度方似事

不ノ所此分賣出ノ候

而座進ノ拂方多相成

ノ時ハ右ノ不長崎札先

お筆事申部義自然不

正しく不交文の唐物取  
締り差支りし旨に取  
拂方取座の在りて  
極置りて後し差支り有  
り万友部より取以不近  
才對剛より取以不近  
く如天明八申年より去已  
年迄十々年より官費共六  
千七百七十石に及り  
道政より五年以前實年増

九拾七石に取以不近  
馬寄留書居取しもの七石  
取以不近の官費共取母を  
志ハ十々年より取以不近  
有りし旨に取以不近  
辛拍以多し又し取以不近  
年三官費共六万五千七百  
石に取母子計百六十石に  
志子百八拾石に取以不近  
取以不近の官費共

出高の相極々余積登了  
と七廿三年の融通い  
書出たきり年書出た  
右の教の相極遠砂の宗  
年始りる登り候之元競  
もそり百進りる登り  
右格の余書り候也  
右の座り、五ヶ年程  
言と平相り候也  
書出た高若極々余の書ハ

外三本同様翌三年の融通  
以り年一書出た中右の  
書居り候り候可仕候也  
好

右の通所中々も封切の以  
一以上と唐方打混り中  
候有元之書出り候也  
書出た中置り候末之至給  
書出た中一有り候也元  
高の味仕り候也調也

安之唐物壹買以六締之相  
成可中七有存、依之對馬馬  
海島居以爲、書付或通年  
り、変之書付とも、類合三五  
写本係以、既、手同、

本文中上、所、ハ、朝鮮産  
之、葉種、五、右、系、種  
之、少、朝鮮産、木、綿、牛  
角、同、凡、同、皮、羊、干、肉、以、以  
所、ハ、是、上、之、品、也、高、貴、仕

本、中、之、余、虎、皮、豹、皮、布  
類、筆、墨、紙、大、油、紙、袖  
刻、胡、桃、子、松、實、米、干、栗  
綿、紙、廣、紙、紗、生、系、榻、脊  
花、席、綿、羊、皮、離、宮、香  
扇、急、扇、子、七、已、蠟、燭、繩  
鞞、陶、物、麩、鹿、肉、麩、多、系  
粉、道、具、麩、魚、多、麩、右  
木、之、所、ハ、稀、之、也、其、也、也  
之、所、ハ、高、貴、仕、以、也、也



之音相用又ハ不坐よ  
調也ハ後ホ有ハ自放  
ハ至ハ僅ハ後ハ對馬  
書寫ハ岳書ハ長カ  
依ハ有ハ不ハ後ハ五年  
行ヨ目名度反物問屋改  
相紀ハ如牛角同凡  
紙如桃子花席離宮  
香扇扇急扇蠟燭陶物ハ  
唐方ハ解産能相分

牛皮羊干肉虎皮豹皮大  
油紙松實米ハ干粟さ  
ハ虎肉ハ唐方ハ坐耳  
持候ハ余拾取ハ  
ハ是ハ手至ハ不中  
立ハ可取拾取ハ  
昔ハ也合有ハ  
長ハ座者ハ  
綿賜脊ハ合

三張和く身本若出以付是  
又在年行司所改役は乃  
見言調く如木綿池生系  
繩鞭と朝鮮産と唐方  
能知分布た是未道及奥  
多類と唐方と括派し  
各々錦織と改く唐方と  
朝鮮産と身本同括と  
お分不中く各一同中くは太  
朝鮮品くは木綿牛肉

白乳白皮牛肉も高き貴  
仕来く強く好む唐方お  
給く改く各々官留と居  
中立つ強弱並そ余毫  
物用又と不坐、信と調と  
く分中と、おくは錦織  
ハ唐方朝鮮産お分り  
為了分中立つ有く儀分此  
後賣おくは下屋お此外  
く品と是とくは無お心給

根留子居ハ中經賣別後  
庵也ノ書キ本文中六振  
合リ以去編ハ後中廿ノ根  
不仕トモ存ク

此後朝鮮産物ハ後宗對  
馬島ハ承紀大坂表唐菜問  
屋菜種中買兩年行司九  
茶唐及地問屋改改亦和紀  
ノ上層也ト朝鮮産物ハ紛  
格ハ仕法云調朝鮮産物

一十年ノ賣言和極ノ販振  
後九和又不中勿編進ノ拂方  
多和成ノ地長崎札先ニ  
和國云編方モ為支亦中販  
モ和考中上長崎寺行ハ和  
合ニ後去和又亦中モ是ニ  
ノ後ノ言ニ十年平均以  
以專ト云々年ノ賣言和極  
ノ上長崎札先ニ賣言不中  
後也下有ノ和ノ地長崎

今年、賣方此方極、  
多、此札先、其障、  
不中、  
吾、俄長、  
亦右、  
若、  
多、  
仰、

年十月

評、

享和二年、  
大坂町奉、

一不正、  
伺方、

不正、  
先、  
不知、  
者、  
、

八書留亦也多難相分  
庄、仍其安永天明兩度  
以味去其地分下分  
以味去其地分下分  
其地分下分何後分  
不正唐物大扱後精風  
中ノ方承之汝法方  
子進不捕進、以味住  
右ノ振合之部度、其地  
お何事申右一併分上

唐物方出、後進以之  
度、其地分上長降  
右ノ是或ハ部表之入札拂  
中ノ分、後之度、不學其  
所相お、何度、紅毛打  
有、其、右、不書、立、長、端、表  
右ノ是、於、彼、地、所、調、上、其  
支、多、其、中、紙、分、其、地、  
入札拂中、何、分、又、有、其、分、  
彼、地、右ノ是、賣、拂、其、分、



物入亦お堂子困窮し町々迷惑  
ニ至る後お堂子資格公入組  
中へ授命一途へ後々  
ハ先例へ振言正味味云々  
於事亦得城代へお堂子  
等へ上る仕置申付てお調  
多敷もお掛り申す所へお入  
もお減且て牢死あり憂也  
各敷各理し宜下有るに於  
てお存り可

十四年以前兩年先取小田  
切土依て在勅中府物賣  
買其云歸へ後てお堂子  
西へおとも西へ唐物云  
扱解ニとも怪及後お堂子  
ハハ早業(吐味仕置仕置)  
後て先例お堂子分ち  
てお堂子おともお堂子  
うお城代へお堂子即付  
仕置申付てお堂子

内文締む可成部と  
存る録と分る云締  
候中上置、此序物書  
少由表云締方、候ハ是  
録と以て不答案候可  
中付毒細、候ハ遊  
候下与呈成十日下  
此序、并、後、仕、  
候と都度、之、地、  
何事、候、此、序、

年以前中年、此、  
ハ年死、之、  
之、力、中、候、  
同、友、ハ、仕、置、  
此、中、并、候、ハ、  
も、宜、又、之、死、  
牢、死、候、不、  
味、手、可、不、  
此、下、分、有、  
此、亦、候、



色七子細依之

白後右心好正心取調中夜

以順七子細

評後之

穢多非人之類

謝文入之錄

天以四辰年以渡 松六番

甲府勅事支配伺

一引渡方年之非人引下之料

不中付候之評議

柴村友常市代系

甲州八代郡市川大門村

湘人語

清平

右ノ事候猶在申取相料在

之周法院常室院内洵

後在投書盜賊之候  
内分云云大度之候に難成筋  
之処に相云次捕方米門  
後武方米門を平也引後  
去る候に相遠く至不坊  
急度此リ

此候一件の内捕方米門同様  
之候に云云大度有以人  
百捕之候物云返内證  
迹云々之候所定但書

見合之料錢三貫文ニ打  
下中細此味書朱書之候  
人々候に非人引後相  
仕置云々付合可引後  
其候の非人引後候  
直云中候と云云候中上  
非人引後之料取云々  
之例と云云云々百三十日  
手紙



*[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side.]*

寛政三亥年島尻丹波子夜口

直 二十二番

一在方におろく番非人盜賊

悪黨のし捕らるる候付

譯後

困るに在方番非人村中盜

賊悪黨のし捕らるる候付

訴へ仕事一様有る官

致る候右非人し手盗

緘魚黨の且右川合  
のホ一五打擲吐味以  
上長かゝ俄と有る程  
お見と百姓ホハ勿論と俄  
令居者新しものホ一  
番非人く自云吐味打擲ホ  
以多しと助と有る官友  
怪友のホ捕とつ、早速  
之地以と助と役人の  
かると可然故と有る強評

緘は中上旨の仰り

此役番非人村中盜緘魚黨  
りのホ捕とつ、真と繩と魚  
又と手と録りと魚黨りの  
と打倒と成と捕と緘と  
可致と好と盜と魚と子と始  
末ハ御土地頭と助と役  
人可お礼緘と紀と上中陣  
と好と痛と吐味以多し  
と緘と有ると有る奇緘

多非人亦以中付痛ノ下也  
以後も所有する事も有  
仙助ノ役人其苦以て一痛  
メ下也此等事ノ始末ハ  
右役人打尋ノ後格別  
假令毎宿々々も此等  
事ノ始末を捕番非人  
亦之にお礼候ハ有らば  
貴間右ノ紙一統も解有  
る可然哉と存候

亥  
五月

寛政四子年 水汲 六十七番

火所 増減改

長谷川 年 爲 何

一 非人 手 下 蔵 け の 引 文

度 順 叙 加 小 後 舟 語 後

本所 出村町 代地

壺山寺地 小池 汲

吉 彦 抱 非人

已 之 助

右 之 の 後 先 寺 言 味 之 節

之 父母 在 杵 杵 年 若 之 坐 中



左を途中へ小盗以りし  
舟敷舟仕置し可き何處  
拾七歳以下舟迄急守可  
中舟へ好む引取し小舟  
中舟へ好む引取し小舟  
穰多淺く助へ引渡り処  
後舟落以り又途中  
盗い多し舟科設相  
舟仕置可中舟へ好む引  
舟仕置可中舟へ好む引

非人へお成り仕在り知已へ助親  
中舟へ好む引取し小舟  
舟店者右舟へ好む引取し  
舟へ好む引取し小舟  
舟へ好む引取し小舟  
舟へ好む引取し小舟  
舟へ好む引取し小舟  
舟へ好む引取し小舟  
舟へ好む引取し小舟  
舟へ好む引取し小舟  
舟へ好む引取し小舟

紙中偽し腹不堵し舟打急  
し船中舟名櫛多錢し而  
し中平活部し腹打何且者  
右船の候悴已し助心底七  
打走し中し引所友腹五息  
紙出し如何所斗可中部し  
候相伺し

此後之如初味し其友親  
其相果冬宿し空中偽し故  
非非人存下し打成し候し今

殺親者在浦し引親友腹紙  
お打遠名し上六先し言望  
致しし以替し友度存相  
誨冬宿し空中去し八親  
し名前去し候し一然心中  
偽し候し以産し言不及而替  
親者右船し引渡可中言  
し候渡可替部し子為し

子  
十月

三拾番

寛政七年太田徳中書

所

一 穰多非人 設仕置

評法

設打当 穰多非人 穰多

取仕取 宇舎中

多或ハ抱 主不朝夕

一 難後 存抱 主不自然

と成り申筋も有る哉りの  
風守有るは守先以役中  
池田筑後守と尋ね成る度  
別紙亦通る紙に申上り日  
稼言五紙命を此の事しよの  
し候は候は三朝仕置連も  
改り致し仕置職多段の方  
言方致しともいふは候者  
之百友許御候仕申上り  
此書取さし候申す

此候抱主申共遊人存る  
小座頭候と別と抱主  
申名目有る事候候池  
田筑後守申上り申下  
申候しよの小座頭申  
言中扶持是出し候候  
申し仕置申守舎に非  
人申事有るしよの事申  
事し候事申事出候  
候京大坂七右衛門候

有之非人、右仕置、左也、島  
下ハ彈左、右ハ後、仕  
置、右致分中付在方、左  
不、釋多、取仕置中付、  
核中後、右佛定、釋多  
右仕置、右、准、同核  
取、平、取、右、彈左、後、方  
之、又、仕置、定、別、後  
有、右、之、也、中、後、引、後、  
右、之、也、右、不、右、仕置、也、也、

之、右、取、右、准、彈左  
也、右、定、法、仕置、中、付、取  
右、右、不、右、致、也、也、  
之、十、日、又、右、日、穿、舍、中、付、  
也、彈左、後、方、後、取、定  
法、之、也、右、不、右、取、致、仕  
置、中、付、右、中、後、也、

公、使、右、仕置、也、  
同、核、之、也、助、右、也、非、人、  
右、仕置、ハ、彈左、也、取、平、也、

叙之、所定も振り

外へ上叙も不限

公儀に仕置と違ひ、彈正

門下へ仕置次第も有る

官叙へ仕置

公儀の色も、何れも助也

有る程、官叙次第も有る

卯七月

寛政八辰年、内渡、外拾貳番

甲府勅番支配同

一甲府表へ穢多、内仕置、内渡

才へ後へ評叙

一甲番へ後一、群三郡穢多

外穢引祝教等へ支配也

仕へ得共、古切末、内扶持、才へ

下へ身分、金へ穢多、才へ

外へ、内穢穢多、内仕置



後為言穢多其在中近置可然  
部々々仰望の

以候安永七戌年穢多非人

風俗に候事仰出れ候事付

由百姓町人神に候事

力の事農家古仕置中付

候為言穢多非人茶筌

一計部々々中近置候事料私

候事古能有る事町

事行候事彈右事の中近置

下々の事候事彈右事の中近置

候事の中近置候事弛

候事可有る事古能

候事穢多非人亦百姓町人

對一法外に候有る事

外に物を用候事

置る事増長候事

候事有る事古能事

候事一候事古能事

中近置候事古能事



彈右為ハ勿端々外志  
國ハ俄トク支配ハ代友  
領主北江ハチ不ハ權多  
隨トモハ力中派考上層  
紛々俄有ハク當人ハ勿論  
今支配ハ權多ハハ以仕  
置可ハ 仰身分一統ハ以  
能有ハ可於卦ニモ存ハ

辰  
七月



